

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況	2
ア. 天使大学の現状と課題.....	2
イ. 博士後期課程設置に関する地域・社会的動向等の現状把握・分析.....	3
ウ. 博士後期課程の趣旨・目的、教育内容、定員設定等.....	4
1) 博士後期課程設置の趣旨・目的・教育内容.....	4
2) 定員設定の考え方.....	4
3) 学生納付金の設定について.....	5
エ. 学生確保の見通し.....	5
A. 学生確保の見通しに関する調査結果.....	5
B. 看護学分野の動向.....	7
C. 既設学部等の学生確保の状況.....	8
オ. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....	8
2. 人材需要の動向等社会の要請	10
2-1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的.....	10
2-2. (2-1) が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものである ことの客観的な証拠.....	10

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

ア. 天使大学の現状と課題

本学は、看護栄養学部看護学科と栄養学科の2学科を設置しており、看護学と栄養学の2分野の教育、研究を通して、「健康」と「生活」という共通概念を基盤にして、人々の健康の回復と保持・増進、疾病予防、あるいは平和な死への援助を実現するため、それぞれ独自のアプローチを持ちながら、連携・協働して地域社会に貢献できる専門職業人の育成を目的とする大学である。(※1)

立地は北海道の交通の要所である札幌駅に近く、交通アクセスが良い。

大学院は看護栄養学研究科の1研究科に看護学専攻と栄養管理学専攻の2専攻を設置し、看護学専攻の中には、修士論文コース、高度実践看護師コースおよび保健師コースを設置している(※2)。

この他に、専門職大学院である助産研究科を有している。(※3)

看護栄養学部の学生は、2学科ともに過去5年間安定して確保しており(資料1、資料2)、入学後の退学者も少数に抑えられ(資料3)、卒業後はほぼ全員が就職または進学しており(資料4)、現状では入学から卒業までの教育運営は滞りなく行われている。

しかし、近年受験生が減少している傾向があり(資料5)、その原因としては北海道内の18歳人口の減少傾向及び、大学進学率は上昇している一方で、従来は他県に比して高かった地元残留率がわずかながら低下している影響、近隣の他大学の看護学科定員増等の影響を受けているものと考えられる。

一方、本学大学院看護栄養学研究科の学生数は、近年は改善傾向にあるものの定員は満たしておらず、定員の確保が継続的な課題となっている。(資料1、資料2) 看護栄養学研究科看護学専攻は、保健師コース、CNSコースの希望者に偏り、研究者、教育者を養成する修士論文コースの入学者が少ない傾向にあり、その要因として受験者に実践者志向が高いことと、修士論文コースの認知度の低さが考えられる。

この課題に関する看護栄養学研究科の取り組みとして、大学院の広報活動に関する2023年度活動方針として(広報委員会、入試・広報室との連携)「大学院ホームページの見直しと充実(専攻分野等の紹介)」「大学院説明会の実施、公開授業、特別講義等の実施」「科目等履修制度を利用して大学院教育を体験できるように検討」「オープンキャンパスでの大学院のPR、大学院ブースの設置、大学院生の活用」「ホームページに大学院に関する記事の掲載」「大学院生募集のPR(大学院看護栄養管理学研究科の案内送付)」「実習指導者会議、実習巡回時等の機会を活用してのPR、大学院案内、募集要項の配布等」「学部生の進学支援の推進。奨学金制度の拡充案の策定と他大学院の情報収集」「学外向けの定期的な研究会の開催」を挙げ、検討している。

【出典】

- ※1 看護栄養学部ホームページ
<https://www.tenshi.ac.jp/collegegraduate/gakubu/>
- ※2 看護栄養学研究科ホームページ
<https://www.tenshi.ac.jp/collegegraduate/daigakuin/kango/>
- ※3 助産研究科ホームページ
<https://www.tenshi.ac.jp/collegegraduate/daigakuin/josan/>

イ. 博士後期課程設置に関する地域・社会的動向等の現状把握・分析

天使大学（以下、「本学」と記載）が所在する北海道に、看護系博士後期課程を設置する大学は共同大学院を除き5大学ある。（資料6）これらの大学の中で、看護学研究科や看護学専攻として博士後期課程を設置するのは3大学である。各大学の1学年の入学定員は、札幌医科大学大学院保健医療学研究科看護学専攻2名、札幌市立大学大学院看護学研究科が3名、北海道医療大学看護福祉学研究科看護学専攻が2名である。その他、北海道大学は大学院保健科学院保健科学専攻において保健科学コースと看護学コースを合わせて10名、北海道科学大学は保健医療学専攻（5分野）で3名となっている。

これら周辺の大学の博士後期課程における2022年度定員充足率は、資料6に示す通り、札幌医科大学大学院保健医療学研究科看護学専攻の83.3%を除き、札幌市立大学大学院看護学研究科は211.1%、北海道医療大学大学院看護福祉学研究科看護学専攻が183.3%、北海道大学大学院保健科学院が186.7%、北海道科学大学大学院保健医療学研究科が77.8%と殆どが100%を超えている。これらの状況より、北海道の博士後期課程看護学専攻の入学ニーズは高く、それに応える定員数は不足している。

また、北海道内の看護系大学は13校で、学部の入学定員の合計は1095名（令和3年日本看護協会統計）である。そのうち、修士課程または博士前期課程を有する大学は8校で入学定員は64名であり、道内において看護系大学を卒業し、修士課程、博士前期課程を修了した学生の数に対して、博士後期課程は5校20名の入学定員と、進学の可能性のある学生数に対する博士後期課程は十分とは言えない状況にある。

さらに、北海道内の看護系大学・教育機関は慢性的な教員不足の状況にあり、博士の学位保有率は、全国平均の37.3%（資料7-1、7-2）に比して、北海道全体の平均保有率は30.2%と低い。（資料8）教員の学位保有率が10%未満の大学もあるなど、大学により差が大きい。看護系大学の教員の学位取得が課題となっている。教員の学位保有率の比較からは、学生の教育をする上で最新の研究データに基づく教育の実施等に課題があると考えられる。

これら、看護の研究者、教育者が道内で不足している現状は、看護教育の質の向上と看護、保健医療における研究の発展に関わる課題をもたらす。

看護系大学の設置数、定員数について北海道は18歳人口45名に対して1名の割合で

あり、最も看護系大学の設置が進んでいる南関東（埼玉、東京、千葉、神奈川）の45.6名に対する1名とほぼ同数の割合である。（日本看護系大学協議会 2022 会員校データ、リクルート進学総研マーケットリポート Vol.95 ※4より算出）

また、地域社会の人々の健康課題の解決に関して、2-2で述べるように保健医療・健康施策に関わる研究者の育成が北海道の課題となっている。

【出典】

※4 日本看護系大学協議会 2022 会員校データ

<https://www.janpu.or.jp/campaign/file/ulist.pdf>

リクルート進学総研マーケットリポート Vol.95 .2022

<https://souken.shingakunet.com/research/2022/06/182021-1.html>

ウ. 博士後期課程の趣旨・目的、教育内容、定員設定等

1) 博士後期課程設置の趣旨・目的・教育内容

博士後期課程設置の計画は、イで示した道内の看護系博士後期課程の不足、看護系大学教員の学位取得の必要性に対し、アに示した安定した学部教育、大学院教育を基盤として計画する。博士後期課程設置の目的は、上記の道内の看護系大学、大学院の現状の分析から、①研究者の育成、②教育者の育成、③高度な専門業務に就く人材の育成、④大学の理念の実現の4点を掲げる。

本学が博士後期課程を設置し、上記①～③を達成していくことにより、北海道内の看護系教員に博士号学位保有者を増加し、学位の保有率を全国平均並みに引き上げることが可能にする。さらに、優れた学識を持つ教員の増加は北海道全体の看護教育の質向上に貢献することができる。また、2-2で述べる都市部と地方の医療格差、人口の偏差がもたらす北海道の健康課題を分析、解決し、研究を通して看護実践の質向上と施策に貢献できる優れた研究者、リーダーの育成により、北海道はもとより全国の人々の健康な生活の実現に貢献できる。

本課程においては、これらの目的と育成する人材の目標を達成するために、修了時まで看護、保健医療に係る研究者、高度実践者、教育者として、高度な専門知識を基盤に自立して課題を探求し研究する能力を修得できるよう、基盤科目、専門科目、研究指導科目の区分を設置している。

2) 定員設定の考え方

本学博士後期課程は継続的に定員を確保し、教員に過重な負担がなく学生に合わせて指導できる人数として、入学定員を2名、収容定員を6名と設定した。

その根拠として、近隣大学の定員とその充足状況（資料6）を参考にした。イで述べた通り、近隣の他大学博士後期課程の定員は、北海道大学の10名を除く他大学は2～3名であり、充足率は年度による変化はあるが、ほぼ定員を確保または上回っている。

また、教員一人当たりの学生数は、札幌医科大学大学院保健医療学研究科看護学専攻博士後期課程は教員 14 名に対して収容定員 6 名（入学定員 2 名）で 0.42 人、札幌市立大学大学院看護学研究科博士後期課程は、教員数 12 名に対して収容定員 9 名（入学定員 3 名）で 0.75 人となっている。看護系大学協議会の全国調査においても、博士後期課程での教員一人当たりの平均学生数は 0.6 人である。（資料 7-3）天使大学大学院看護栄養学研究科博士後期課程（以下、「本学博士後期課程」とする）では、教員数 17 名で収容定員 6 名（入学定員 2 名）の予定であり、学生への指導体制として教員一人当たりの学生数は、0.35 人の見込みである。予定している主指導教員 6～7 名のうち、4 名は大学院の専任であり、長期履修生を考慮しても十分に指導可能な体制と考える。以上のように、近隣大学の入学定員と充足状況、教員一人当たりの学生数、さらに本学博士後期課程における教員組織、学修環境等を総合的に勘案し、入学定員は 2 名とした。

3) 学生納付金の設定について

本学博士後期課程は、看護系大学等の高等教育機関や保健医療関連の研究機関等に勤務する教育・研究者や、病院、助産所、行政等の保健医療福祉関連機関に勤務する看護職者等の社会人を中心に多様な人材を幅広く受け入れる。そのため、学生納付金は、学修環境や教育の質を維持しつつ、学生に過重の負担とならないように考慮し設定した。（資料 9）

金額の設定にあたっては、北海道内の看護系大学院博士後期課程の学費、及び道外の本学と同様の看護系カトリック大学の学費等を参考に（資料 10）、道内の国公立の大学の学費に近い金額になること、本学の修士課程および栄養学専攻との均衡を考慮して設定した。なお、本学の卒業生と修了生は入学金、施設設備費、実験実習費を免除し、他大学卒業生についても施設設備費および実験実習費を免除する。また、学生には一律研究費の給付も計画されている。

さらに、本学には奨学金制度が整備されており、制度を利用することにより経済的負担の軽減が可能となっている。

エ. 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しに関する調査結果

①調査方法

本学博士後期課程への進学が見込まれる本学大学院看護栄養学研究科および助産研究科の修了生と在学学生 513 名を対象に、入学意向に関するアンケート調査（資料 11、資料 12）（以下「入学意向調査」と記載）を実施した。入学意向調査は、本学の博士課程設置準備室を通じて令和 4 年 12 月にグーグルフォームを用いて Web 上で実施した。アンケートの依頼文には開設予定の時期、場所、開設予定の課程の概要、養成する人材像、設置科目、学納金（予定）等の情報を掲載した。

②回答者の背景

入学意向調査の配布数は513名、有効回答者数は74名（回収率14.4%）であった。

回答者の背景として、助産研究科の修了生と在学生在が多く（資料13の表1）、現在の在籍状況は、修了生が64名（86.5%）、在学生在が10名（13.5%）で修了生が多かった。（資料13の表2）

現在の就労状況は、現在就労している人が多く、就労しながら大学院で学んでいる人も含めると65名（87.8%）であった。（資料13の表4）

就労している65名の勤務先は、病院等の医療機関が41名（63.1%）、教育機関（大学、短大、専門学校など）が12名（18.5%）、行政機関（保健所等）が8名（12.3%）であり、その他に助産所、訪問看護ステーションなどであった。（資料13の表5）

③博士後期課程への関心

回答が得られた74名を対象に、本学博士後期課程への興味・関心について尋ねたところ、「興味・関心がある」が32名（43.2%）と最も多く、次いで「とても興味・関心がある」が19名（25.7%）であり、51名（68.9%）が本学博士後期課程への興味・関心を示す結果であった。（資料13の表6）

④入学の意向

回答者全体の博士後期課程への入学の意向については、「ぜひ進学したい」4名（5.4%）、「進学したい」1名（1.4%）、「条件が整えば進学したい」が22名（29.7%）、「修士課程の修了後に検討したい」3名（4.1%）、「博士課程への進学は考えていない」は33名（44.6%）、「わからない」が9名（12.2%）、「その他」が2名（2.7%）であり、27名（36.5%）が入学に前向きな結果であった（資料13の表7）。

⑤博士後期課程への関心と入学の意向

本学博士後期課程に興味・関心を示した51名の本学博士課程への入学意向については「条件が整えば進学したい」が22名（43.1%）と最も多く、「ぜひ進学したい」4名（7.8%）、「修士課程の修了後に検討したい」3名（5.9%）、「進学したい」1名（2.0%）であり、本学博士後期課程への入学について30名（52.9%）が肯定的な回答を示す結果であった。（資料13の表8）

本課程への進学希望と関心とのクロス集計では、「ぜひ進学したい」と回答した人の全員が「とても興味・関心がある」とし、「条件が合えば進学したい人」の10名（45.5%）が「とても興味・関心がある」と回答し、12名（54.5%）が「興味・関心がある」と回答している事から、本課程に関心がある人の条件を整えることで、院生の確保につながる事が推測された。（資料13の表9）

⑥入学希望理由

博士後期課程への入学希望理由については31名が回答（複数回答）し、「現在の仕事の能力をさらに高めたい」が23名で最も多く、「博士の学位を取得したい」「将来の進路の可能性を広げたい」がそれぞれ16名、「教育者（大学の教員）になりたい」

が12名、「社会活動に活かすため」が10名、「研究者になりたい」が5名であり、自己の能力を向上し、将来の仕事や活動の可能性を広げたいと考えている事が伺えた。
(資料13の表10)

⑦進学に際して重視すること

進学に際して重視すること(複数回答)について74名の全体の回答で最も多いのは「教育内容」であった。(資料13の表11)

次に、本学博士後期課程への進学について肯定的な回答をした30名を対象に「博士課程への進学を希望する際に重視する事柄(複数回答)」を尋ねたところ、「教育内容(他大学ではあまり学ぶことができない内容)」が18名(60.0%)で最も多く、次に「実現可能な研究内容」が14名(46.7%)であり教育内容に関する項目が上位であった。博士課程進学における環境要因として、「学費・奨学金制度」が14名(46.7%)、「遠隔授業への対応」が11名(36.7%)、「指導教員」が10名(33.3%)であり、自由記述の意見からも学費等の経済的な負担の軽減や、働きながら学修できるための遠隔授業の対応等について重視していることが伺えた。(資料13の表12)

また、「条件が整えば進学したい」と回答している人が多く、自由記述からも学費等の経済的負担の軽減や遠隔授業、長期履修制度などにより、学業と職業の両立が図れる環境に対してのニーズが高いことが伺えた。本学の看護栄養学研究科および助産研究科の修了生は札幌市を中心に北海道全域で就労している人が多いという特徴がある。そのため、学生の状況に応じて、オンラインによる授業・指導を通して遠方で就労している看護職者のニーズに応えることが必要と考えられた。さらに、学費を国公立大学に近い金額に抑えることや、研究費等の拡充を図ることで学生の負担を軽減し、博士後期課程へ進学しやすい条件を整えることとなり、開設時及び中長期的な観点から、継続的な学生の確保が見込まれる。

⑧関心がある科目や開講を希望する科目

関心がある科目や開講を希望する科目に関する自由記載は(資料13の表12)に示した。多岐にわたる記載がある一方、助産学に関する記載が比較的多いのは、回答者の背景を反映していると考えられる。開設を計画している課程には助産学に特化した科目を設置する予定がないことから、受験前の事前相談を十分に行う必要があることが示唆された。

上記の結果から、本学博士後期課程への進学のニーズは示されたと考える。そのため、本学博士後期課程の入学定員6名の確保は十分に可能であり、定員の充足が見込まれる。

B. 看護学分野の動向

看護学の学問分野は、他の学問分野に比して歴史は浅いが、近年の発展は著しい。保健医療、とりわけ高度先進医療の発展に伴い看護の専門分化、IT化が求められる一方、

超高齢社会の到来に伴う地域包括支援の拡大により、多様な場における看護の必要性が高まっている。このような保健医療、看護の変化に対応するため、看護教育においては学部における基礎教育に加え、大学院における高度実践看護師の育成、保健医療の変化に伴う看護ケアの開発をすることが求められ、大学院における専門教育を受けた研究者の育成が急務となっている。

また、1991年の看護師等の人材確保の促進に関する法律の制定以降、看護系大学の増加は著しく、これに伴い教員養成の必要性から、全国的に看護系大学院も増加の一途をたどっている。(資料14)一方で、全国的に2020年以降のコロナ感染症拡大の影響も加えて、看護職は慢性的に不足している現状がある。

北海道には、看護職養成機関としての看護系大学は13校、修士課程を有するのは8校、博士後期課程を有するのが5校である。道内13校の学部の学生定員と看護教員数は資料15の通りである。13校の教員一人当たりの担当学生数は、平均10.55人であり、全国平均の10.3人(資料7-3)をわずかに上回るものの、ほぼ近い。しかし、6校では12人を超えており、教員が不足している現状が伺える。

また、博士後期課程を有する大学の定員充足状況は、資料6の通り、1大学を除き継続的に定員を超えている傾向にある。

これらの現状から、看護学分野における大学院博士後期課程新設の必要性は高く、本学看護栄養学研究科博士後期課程においても、継続的に学生を確保し、定員を充足する見通しが持てる。

C. 既設学部等の学生確保の状況

過去5年間の本学看護栄養学部と大学院看護栄養学研究科の入学者数の状況は資料1の通りであり、学部の入学者は安定して確保できている。一方、大学院看護栄養学研究科看護学専攻(修士課程)においては、定員を満たさない状況が続き、2020年、2021年度は大幅に落ち込んだが、2022年度以降増加傾向がみられ、2023年度も8名の入学生が予定されている。大学院助産研究科(専門職学位課程)においては、定員数40名のところ24名の入学者に留まっている。助産研究科は、道内の出産件数の大幅な減少が続き、実習施設の確保の困難により、学生数を増やせない現状がある。看護栄養学研究科看護学専攻(修士課程)は、多様な広報活動を展開し、学生確保のためなお一層の努力が課題である。

オ. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

1) 学習環境整備による働きかけ

本学博士後期課程の学生は、看護系大学等の高等教育機関や保健医療関連の研究機関等に勤務する教育・研究者や、病院、助産所、行政等の保健医療福祉関連機関に勤務する看護職者等の社会人を中心に想定している。また、修士課程および専門職大学

院の修了生、在学生への入学意向調査において、働きながら学べる条件整備の要望が多く記載されていたことから、学生が社会人として仕事を継続しながらも修学できるように学修環境を整える。

具体的には大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例を適用する。このことで、平日夜間帯や土曜日、夏期休業期間及び冬期休業期間においても授業が開講できる体制とする。また、長期履修制度（大学院設置基準第 15 条）を設け、最大 6 年まで在学年限を延長できる体制とする。さらに、遠隔授業により十分な教育効果が得られる授業については、遠隔授業を実施する。研究指導は、大学院生と研究指導教員および副研究指導教員の合意のもとに、大学院生に配慮した時間を設定し、個別の指導計画をたてオンラインも活用しつつ運用する。また、図書館は、土曜日曜夜間も開館し、外部からの検索機能を利用することも可能であり、社会人や遠方からも図書館の利用が可能な体制を整備している。本学博士後期課程におけるこれらの学修環境については、本学ホームページ等を通じて広く周知することで、就労中の社会人にも進学の可能性を開き、学生確保に向けて取り組む。

2) ホームページやオープンキャンパス等を活用した広報活動

本学では、年に 2 回のオープンキャンパスを開催して、受験希望者の相談に応じている。これに加え、博士後期課程の担当教員の連絡先を公開し、随時相談ができることをホームページ、入学案内パンフレット、リーフレット等を活用し広く広報して受験生の確保に努める。

また、博士後期課程開設の公表が可能になった段階で、直ちに案内リーフレットを道内の看護系大学等の看護教育・研究機関、医療機関、保健行政機関等に送付して広報に努める。

3) 看護系大学等の教育・研究機関に勤務する教育・研究者への働きかけ

北海道の看護系大学の教員の学位保有率は「イ. 博士後期課程設置に関する地域・社会的動向の現状」で述べた通り、全国の保有率に比して低い水準である。このような状況を考慮して、北海道内及び道外の看護系大学の教員に、学会や地域連携活動、個人的なつながり等も活用し、本学のカリキュラムや研究指導体制、学生の学修環境の整備について丁寧に説明し、受験生確保に努める。

4) 本学看護学部卒業生および本学博士前期課程修了生及び在学生への働きかけ

本学は看護教育において昭和 25 年の天使大学短期大学開設以来の長い歴史を有しており、その中で看護師、保健師、助産師を育成し、卒業生の数は延べ 1 万人を超えている。これらの卒業生は地域社会、保健医療における重要な役割を果たす貴重な人材である。博士後期課程設置に関して、大学及び同窓会を通して同窓生のネットワークを活用して広報し、学部卒業生、修士課程修了生、専門職大学院の修了生の中からも受験生を募る。また、学部教育や修士課程のキャリア教育の機会等を通し、教育者、研究者への進路等も紹介しつつ、本学博士後期課程の認知を高める。

2. 人材需要の動向等社会の要請

2-1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

博士後期課程設置の目的は、高度な専門知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、優れた研究・開発力により、新たな知及びそれに基づく価値を創造し、グローバルな視点をもって、今後の社会を先導することのできる研究者・教育者、高度な専門業務に就く人材を育成することである。これらの人材を社会に排出することで、保健医療分野における看護学の発展・改革に貢献し、看護系大学院としての責務を果たす。

人材育成の目標は「看護学専攻博士後期課程においては、看護学及び保健医療の発展に貢献し、人々の健康に寄与する研究者、教育者のリーダーとなるこれからの社会のニーズに応え得る人材を育成する」と大学院看護学研究科学則に定めている。

これらの目的、目標から育成する人材像として、以下を掲げる。①看護および地域に暮らす人々の健康課題を解決し、看護学の発展および健康の促進に寄与する研究を主体的に自立して遂行、牽引する人材、②高い倫理観を有し、豊富な専門知識と高い技術力を持ち、質の高い保健医療・看護を創出し提供できる高度な専門業務に就く人材、③地域社会、保健医療の現場及び教育機関において、高い専門性をもって指導的、教育的役割を担う人材、④社会の変化および地域の健康ニーズをとらえ、将来を見据えた技術の開発、保健医療・看護の現場の変革、政策提言等を行う能力をもつ人材。

2-2. (2-1) が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な証拠

1) 社会的な人材需要の動向

看護基礎教育の高等教育化への移行に伴い看護系大学大学院は急増し、教育の不足は全国的課題である。「看護における看護系人材養成の在り方検討会」最終報告※5において、大学院に期待される人材として、「教育者、研究者、高度専門職業人、そして知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人材」とある。特に「博士後期課程教育の充実は、今後の検討課題であり、教育者研究者養成及び看護学の学術発展の観点から、博士課程の充実は、きわめて重要である」と述べられている。さらに、「看護系大学が急激に増えたことによる教員の不足傾向や、博士課程に在学しながら教育にたずさわる教員が他分野と比較して多い等の現状もある中、高度専門職業人養成だけではなく、研究者や教育者の養成の充実も喫緊の課題である」として、看護系大学において、教育者、研究者を養成するための博士後期課程の開設の必要性が高いことが述べられている。

また、「未来を牽引する大学院教育改革」※6（中央教育審議会大学分科会平成27年9月）では、「専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな知及びそれに基づく価値を創造し、グローバルに活躍し未来を牽引する『知のプロフェッショナル』育成のための大学院改革として、体系的・組織的な大学院教育の推進と学生の質の保

証の観点から将来の大学教員の教育能力を養成するシステムの構築」が必要とされている。したがって、高度な専門教育を受け、優れた教育・研究能力を有する教員を育成する博士後期課程を設置し、教育及び研究の質を担保することは、看護系大学に課せられた責務と考える。

また、看護系大学協議会は2018年に自民党看護問題対策議員連名会長及び文部科学省宛てに提出した要望書（資料16）において、博士課程教育の推進・充実のため、「①政策に資するようなビッグデータを扱うことができる研究者を育成する博士課程への支援、②学際的な研究開発のプロジェクトを運営できる研究者育成が可能な博士課程への支援」を要望している。本学博士後期課程は、コースワークを充実し、専門性の高い看護や研究方法の学びに加えて、保健医療の場における問題を発見し分析するためのデータサイエンスや今後増々必要となる遺伝子医療やゲノム医療について広く学び、また、保健医療の場における生命倫理について学ぶことができる。これらは、実践の科学である看護学の発展と、地域社会の健康の質の向上に貢献できる研究者育成の礎となると考える。

【出典】

※5 文部科学省「看護における看護系人材養成の在り方検討会」最終報告
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/1302921.htm

※6 中央教育審議会大学分科会「未来を牽引する大学院教育改革」平成27年9月
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1366897.htm

2) 地域的な人材需要の動向

人口減少、少子高齢社会が進むわが国の持続可能性は、危機的状況にあるといわれている。そのような中、コロナ禍は、経済に大きな影響を及ぼすと同時に、格差の拡大やつながりの減少等、国民の健康と生活に様々な影響をもたらした。

本学が所在する北海道では、全国平均を上回る速さで少子高齢化が進んでいる。14歳以下の年少人口の割合が全人口の10.8%で全国平均の12.1%を下回り、年々減少しているのに対し、65歳以上の老年人口の割合は31.9%で全国平均の28.4%を上回り年々増加している（2019総務省統計局）。平均寿命は全国平均レベルとなったが、平均寿命と健康寿命との差は、全国に比べてわずかに長く、延伸している状況にある。がん、循環器疾患、糖尿病等の疾患に関連する生活習慣のリスク要因としては、喫煙や高血圧、運動不足、高血糖、塩分摂取等が示されており、特に、がんの危険因子である喫煙率が北海道は最も高いこと（資料17）や高血圧等の危険因子である肥満が男性では全国に比べ10ポイント、女性では5ポイント程度高いほか、疾病の早期発見・早期治療には、各種検診（健診）が重要にも関わらず、令和2年度の特定健康診査受診率は27.0%（全国33.7%）と全国最低レベルとなっている。（資料18）

急速に少子高齢化が進展する中、予防可能な疾患を予防し、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間を延伸することは、道民の QOL はもとより、社会保障制度の安定の観点や労働人口の確保の面からも重要である。

看護職は、これらの課題に取り組み、住民自らがセルフケアする能力を高める支援や良好な生活習慣を若年期から形成・維持できるように、食育を含めた教育的アプローチをしていく必要がある。その中で、地域の環境整備やまちづくり、施策化、地域ケアシステム構築の実践力が必要となる。

北海道の主な医療機関は札幌市をはじめとする主要都市に偏り、高度急性期と急性期については、入院自給率が 50%を下回る区域が 8 区域ある。北海道は都市間の距離が大きく、札幌市と釧路市の距離は東京と大阪の距離に匹敵するものの、交通事情から移動時間は東京大阪間の 2 倍以上となる。また、人口 10 万人当たりの看護師数は 1074 人と、全国平均の 832.5 人を上回っているが、第二次医療圏別では日高、宗谷、根室圏域で全国平均を下回り、看護師の地域偏在が課題となっている。(資料 19)

このような北海道の医療の状況に対して、北海道地域医療構想※7 を策定して取り組みを検討しているが、課題に対する状況分析及び施策の具体化、運用等を担う高度な専門業務に就く看護職の人材育成は急務である。博士後期課程を設置する本学の取り組みは、地域社会の健康課題を解決し、持続可能な社会の実現に向けた人材を育成するという、地域社会の要請に応えるものである。

【出典】

※7 北海道地域医療構想

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/iryokeikaku/chiikiiryokousou.html>

3) 地域との連携

本学は、大学として様々な地域連携協定を結んでいる。健康づくりや芸術文化、スポーツ、子育てなど、各教育機関の専門性を活かせる分野で東区のまちづくり推進に寄与することを目的に札幌市東区役所と 4 つの教育機関（天使大学、札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部、札幌保健医療大学、北海道スポーツ専門学校）との間で地域連携協定を締結し、連携事業を行っている。また、札幌市東区との連携事業として、ひがしく健康・スポーツまつり、ひがしく健康づくりフェスティバル、介護予防センターとの連携事業等を行っている。

さらに、社会医療法人禎心会等との包括連携協力協定を締結し、保健医療福祉及び食と栄養の分野を包括的に連携協力することで、地域社会に貢献する技術開発と次代を担う創造性豊かな人材を育成することを目的に連携している。

本学博士後期課程における教育・研究を基に、これらの地域の保健行政、医療機関との連携を通して、地域の保健医療に関する研究、実践、人材育成の活動が活発化し、さらなる地域貢献に繋がることが展望される。

資料目次

資料 1	天使大学・天使大学大学院入学者数の推移（2018～2022 年度）
資料 2	天使大学・天使大学大学院在籍者数（2022 年 5 月 1 日現在）
資料 3	天使大学・天使大学大学院退学者数（2017～2021 年度）
資料 4	天使大学・天使大学大学院就職・進路状況（2020・2021 年度）
資料 5	天使大学・天使大学大学院入学者選抜の状況
資料 6	北海道内の博士後期課程定員充足率
資料 7 - 1	全国の教員の学位保有者数
資料 7 - 2	全国の教員の学位保有者率
資料 7 - 3	教員一人あたりの担当学生数
資料 8	北海道内看護系大学教員の博士号学位保有率
資料 9	天使大学大学院看護栄養学研究科博士後期課程学費
資料 10	他大学における博士後期課程の学費
資料 11	天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程 （設置構想中）入学意向に関するアンケート調査（明示資料）
資料 12	天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程設置 に関する希望調査（質問内容）
資料 13	天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程設置 に関する希望調査集計結果
資料 14	看護系大学数・大学院数及び入学定員の推移（令和 2 年度）
資料 15	北海道内看護系大学教員学生担当数
資料 16	看護系大学協議会要望書
資料 17	全国と北海道の成人喫煙率の推移
資料 18	市町村国保都道府県別特定健康診査実施状況（令和 2 年度）
資料 19	北海道内看護師数

入学者数・編入学者数の推移(2018～2022年度)

○選抜区分・募集人員は、2022年度入学者選抜のもの。

●看護栄養学部

◆看護学科

選抜種別	募集人員	2018	2019	2020	2021	2022
学校推薦型(指定校制)	40	6	5	6	6	7
学校推薦型(公募制)		35	35	36	36	37
一般	40	36	46	39	39	39
大学入学共通テスト利用	20	25	10	19	21	19
社会人	若干名	0	0	0	0	1
総計	100	102	96	100	102	103

※一般選抜の募集人員には、社会人選抜の募集人員を含む。

◆栄養学科

選抜種別	募集人員	2018	2019	2020	2021	2022
学校推薦型(指定校制)	44	4	3	5	2	2
学校推薦型(公募制)		38	39	34	43	43
一般	36	44	37	40	38	43
大学入学共通テスト利用	10	13	10	11	10	6
社会人	若干名	0	0	0	0	0
総計	90	90	89	90	93	94

※一般選抜の募集人員には、社会人選抜の募集人員を含む。

◆栄養学科(3年次 編入学者選抜)

選抜種別	募集人員	2018	2019	2020	2021	2022
	5	3				

※2019年度入学より、編入学者選抜を実施していません。

●大学院看護栄養学研究科

◆看護学専攻

選抜種別	募集人員	2018	2019	2020	2021	2022
推薦型	14	0	2	1	1	2
一般Ⅰ期		8	5	1	1	5
一般Ⅱ期		1	3	2	2	1
老年看護CNS		—	1	—	—	—
総計	14	9	10	4	4	8

※2019年度に老年看護CNSコース入学試験を追加実施。

※2022年度に基礎看護学コース入学者選抜を追加実施。

◆栄養管理学専攻(博士前期課程)

選抜種別	募集人員	2018	2019	2020	2021	2022
一般Ⅰ期	3	1	1	0	0	0
一般Ⅱ期		0	1	0	1	1
総計	3	1	2	0	1	1

◆栄養管理学専攻(博士後期課程)

選抜種別	募集人員	2018	2019	2020	2021	2022
一般Ⅰ期	2	0	0	1	0	0
一般Ⅱ期		3	0	1	1	1
総計	2	3	0	2	1	1

●大学院助産研究科

◆助産専攻

選抜種別		募集人員	2018	2019	2020	2021	2022	
助産基礎分野	推薦型	10	4	10	11	5	12	
	一般	I 期	20	7	8	8	9	10
		II 期		4	1	1	1	2
		計		11	9	9	10	24
	社会人	I 期		1	1	0	1	0
		II 期		0	0	1	0	0
		計		1	1	1	1	0
助産教育分野	I 期	10		0	2	0	0	0
	II 期		1	0	0	0	0	
	計		1	2	0	0	0	
総 計		40	17	22	21	16	24	

※助産基礎分野の募集人員は、I 期選抜で15名、II 期選抜で5名。

2022年度在籍者数一覧

2022年5月1日現在

学部 研究科	学科 専攻	コース・分野 ・課程	収容 定員	1年		2年		3年		4年		計		収容定員 充足率	昨年度	
				在籍者 数	充足率											
看護栄養 学部	看護学科	Aクラス	387	52	(3)	51	(2)	50	(1) [1]	47	(1)	403	(12) [3]	104.1%	399	103.1%
		Bクラス		53	(2)	52	(2) [1]	48	(1) [1]	50	(1) [1]					
		計	387	105	(5)	103	(4) [1]	98	(1) [1]	97	(2) [1]	403	(12) [3]	104.1%	399	103.1%
	栄養学科	Aクラス	355	47	(3)	46	(2)	46		44	(2)	366	(11) [1]	103.1%	369	103.9%
		Bクラス		48		46		45	(4) [1]	44						
		計	355	95	(3)	92	(2)	91	(4) [1]	88	(2)	366	(11) [1]	103.1%	369	103.9%
小計			742	200	(8)	195	(6) [1]	189	(5) [2]	185	(4) [1]	769	(23) [4]	103.6%	768	103.5%
大学院 助産研究科	助産専攻	助産基礎分野	60	24	—	17	— [3]	—	—	—	—	41	— [3]	68.3%	37	61.7%
		助産教育分野	20	0	—	0	—	—	—	—	—	0	—	0.0%	0	0.0%
	小計	80	24	—	17	— [3]	—	—	—	—	41	— [3]	51.3%	37	46.3%	
大学院 看護栄養学 研究科	看護学専攻	基礎看護学コース	28	1		0		—		—		1		60.7%	12	42.9%
		成人看護学コース		0		0		—		—		0				
		老年看護学コース		0		0		—		—		0				
		母性看護学コース		0		0		—		—		0				
		小児看護学コース		0		0		—		—		0				
		精神看護学コース		0		2		—		—		2				
		公衆衛生看護学 コース		0		0		—		—		0				
		ホスピス・緩和ケア 看護学コース		0		2	(1)	—		—		2	(1)			
		老年看護CNS コース		0		3		—		—		3				
		精神看護CNS コース		1	(1)	0		—		—		1	(1)			
	保健師コース	6		2		—		—		8						
	計	28	8	(1)	9	(1)	—		—		17	(2)	60.7%	12	42.9%	
	栄養管理学 専攻	博士前期課程	6	1		1		—		—		2		33.3%	3	50.0%
		博士後期課程	6	1		1		5	(1) [2]	—		7	(1) [2]	116.7%	8	133.3%
計		12	2		2		5	(1) [2]	—		9	(1) [2]	75.0%	11	91.7%	
小計			40	10	(1)	11	(1)	5	(1) [2]	—		26	(3) [2]	65.0%	23	57.5%
合計			862	234	(9)	223	(7) [4]	194	(6) [4]	185	(4) [1]	836	(26) [9]	97.0%	828	96.1%

※上段（ ）は男子学生の内数、下段[]は休学者の内数
 ※長期履修学生（在籍者内数）（看護栄養学研究科） 15名
 ※非正規生（在籍者外数）科目等履修生（栄養学科） 2名

退学者数一覧（2017～2021年度）

	2017	2018	2019	2020	2021
看護学科	2	7	5	3	3
栄養学科	1	3	1	0	2
助産研究科	4	5	2	0	1
看護学専攻	0	0	0	0	0
栄養管理学専攻	0	0	0	0	1
合計	7	15	8	3	7

2021年度 天使大学看護栄養学部・大学院 就職・進学状況

2022年6月29日現在

◆卒業生・修了者数並びに就職者数・進学者数

	看護栄養学部				大学院看護栄養学研究科						大学院助産研究科		
	看護学科		栄養学科		看護学専攻		栄養管理学専攻 (博士前期課程)		栄養管理学専攻 (博士後期課程)		助産専攻		
	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	
卒業生数・修了者数	95	100.0%	95	100.0%	3	100.0%	2	100.0%	1	100.0%	19	100.0%	
内訳	就職者数	78	82.1%	91	95.8%	3	100.0%	2	100.0%	1	100.0%	19	100.0%
	進学者数	16	16.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	就職を希望しない者の数	1	1.1%	4	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	未決定者数	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
就職決定率(就職者数/希望者数)	78/78	100.0%	91/91	100.0%	3/3	100.0%	2/2	100.0%	1/1	100.0%	19/19	100.0%	

◆卒業生の単位修得状況

	看護栄養学部	
	看護学科	栄養学科
単位修得 平均値	127	136

◆就職者の地域別内訳

	看護栄養学部				大学院看護栄養学研究科						大学院助産研究科	
	看護学科		栄養学科		看護学専攻		栄養管理学専攻 (博士前期課程)		栄養管理学専攻 (博士後期課程)		助産専攻	
	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合
札幌市内	57	73.1%	63	69.2%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	9	47.4%
道内(札幌市内含まず)	5	6.4%	17	18.7%	2	66.7%	2	100.0%	0	0.0%	5	26.3%
道外	16	20.5%	11	12.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	5	26.3%
計	78	100.0%	91	100.0%	3	100.0%	2	100.0%	1	100.0%	19	100.0%

◆就職者の職種別内訳

	看護栄養学部				大学院看護栄養学研究科						大学院助産研究科	
	看護学科		栄養学科		看護学専攻		栄養管理学専攻 (博士前期課程)		栄養管理学専攻 (博士後期課程)		助産専攻	
	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合
看護師	78	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
保健師	—	—	—	—	2	66.7%	—	—	—	—	—	—
助産師	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19	100.0%
大学・短大教員	—	—	—	—	1	33.3%	—	—	—	—	—	—
管理栄養士・栄養士・栄養教諭・食品衛生監視員	—	—	76	84.4%	—	—	2	100.0%	1	100.0%	—	—
上記以外	—	—	14	15.6%	—	—	—	—	—	—	—	—
計	78	100.0%	90	100.0%	3	100.0%	2	100.0%	1	100.0%	19	100.0%

◆進学者の進学先内訳

	看護栄養学部				大学院看護栄養学研究科						大学院助産研究科	
	看護学科		栄養学科		看護学専攻		栄養管理学専攻 (博士前期課程)		栄養管理学専攻 (博士後期課程)		助産専攻	
	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合
大学院・大学専攻科	13	81.3%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
専修学校・外国の学校等	3	18.8%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	16	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

◆留学者数:該当ありません

2020年度 天使大学看護栄養学部・大学院 就職・進学状況

2021年8月18日現在

◆卒業生・修了者数並びに就職者数・進学者数

	看護栄養学部				大学院看護栄養学研究所						大学院助産研究科		
	看護学科		栄養学科		看護学専攻		栄養管理学専攻 (博士前期課程)		栄養管理学専攻 (博士後期課程)		助産専攻		
	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	
卒業生数・修了者数	91	100.0%	88	100.0%	8	100.0%	1	100.0%	—	—	21	100.0%	
内訳	就職者数	79	86.8%	84	95.5%	8	100.0%	1	100.0%	—	—	21	100.0%
	進学者数	9	9.9%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	—	—	0	0.0%
	就職を希望しない者の数	3	3.3%	3	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	—	—	0	0.0%
	未決定者数	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—	—	0	0.0%
就職決定率(就職者数/希望者数)	79/79	100.0%	84/84	100.0%	8/8	100.0%	1/1	100.0%	—	—	21/21	100.0%	

◆卒業生の単位修得状況

	看護栄養学部	
	看護学科	栄養学科
単位修得 平均値	127	134

◆就職者の地域別内訳

	看護栄養学部				大学院看護栄養学研究所						大学院助産研究科	
	看護学科		栄養学科		看護学専攻		栄養管理学専攻 (博士前期課程)		栄養管理学専攻 (博士後期課程)		助産専攻	
	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合
札幌市内	65	82.3%	51	60.7%	7	87.5%	0	0.0%	—	—	11	52.4%
道内(札幌市内含まず)	2	2.5%	21	25.0%	1	12.5%	1	100.0%	—	—	3	14.3%
道外	12	15.2%	12	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	—	—	7	33.3%
計	79	100.0%	84	100.0%	8	100.0%	1	100.0%	—	—	21	100.0%

◆就職者の職種別内訳

	看護栄養学部				大学院看護栄養学研究所						大学院助産研究科	
	看護学科		栄養学科		看護学専攻		栄養管理学専攻 (博士前期課程)		栄養管理学専攻 (博士後期課程)		助産専攻	
	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合
看護師	79	100.0%	—	—	3	37.5%	—	—	—	—	—	—
保健師	—	—	—	—	5	62.5%	—	—	—	—	—	—
助産師	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	95.2%
大学・短大教員	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	4.8%
管理栄養士・栄養士・栄養教諭・食品衛生監視員	—	—	73	86.9%	—	—	1	100.0%	—	—	—	—
上記以外	—	—	11	13.1%	—	—	—	—	—	—	—	—
計	79	100.0%	84	100.0%	8	100.0%	1	100.0%	—	—	21	100.0%

◆進学者の進学先内訳

	看護栄養学部				大学院看護栄養学研究所						大学院助産研究科	
	看護学科		栄養学科		看護学専攻		栄養管理学専攻 (博士前期課程)		栄養管理学専攻 (博士後期課程)		助産専攻	
	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合	人数(名)	割合
大学院・大学専攻科	9	100.0%	1	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—
専修学校・外国の学校等	0	0.0%	0	0.0%	—	—	—	—	—	—	—	—
計	9	100.0%	1	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—

◆留学者数:該当ありません

表1 看護学科

学校推薦型選抜（公募制）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	53	46	59	37	57
受験者数	53	46	59	37	57
合格者数	35	35	36	36	37
倍率（受/合）	1.5	1.3	1.6	1	1.5

一般選抜（一般入試）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	296	289	287	232	233
受験者数	293	285	285	228	227
合格者数	85	94	74	88	91
倍率（受/合）	3.4	3	3.9	2.6	2.5

大学入学共通テスト利用選抜（大学入試センター試験利用）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	132	180	150	176	188
受験者数	132	180	150	176	188
合格者数	36	28	41	77	86
倍率（受/合）	3.7	6.4	3.7	2.3	2.2

表2 看護学専攻 修士課程

推薦入試 ※2021年度以降「推薦選抜」

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	0	3	1	1	2
受験者数	0	2	1	1	2
合格者数	0	2	1	1	2
倍率 (受/合)	—	1	1	1	1

一般入試 (前期) ※2021年度以降「一般選抜 (Ⅰ期)」

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	8	7	3	1	6
受験者数	8	7	3	1	6
合格者数	8	5	2	1	5
倍率 (受/合)	1	1.4	1.5	1	1.2

一般入試 (後期) ※2021年度以降「一般選抜 (Ⅱ期)」

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	2	3	2	2	1
受験者数	2	3	2	2	1
合格者数	1	3	2	2	1
倍率 (受/合)	2	1	1	1	1

表3 助産研究科 助産基礎分野

推薦入試 ※2021年度以降「推薦選抜」

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	5	11	14	5	15
受験者数	5	10	13	5	14
合格者数	4	10	11	5	12
倍率(受/合)	1.3	1	1.2	1	1.2

一般入試(前期) ※2021年度以降「Ⅰ期選抜(一般)」

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	7	10	12	10	23
受験者数	7	9	12	10	23
合格者数	7	8	8	9	12
倍率(受/合)	1	1.1	1.5	1.1	1.9

一般入試(後期) ※2021年度以降「Ⅱ期選抜(一般)」

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	1	2	2	1	7
受験者数	1	2	2	1	7
合格者数	1	2	1	1	2
倍率(受/合)	1	1	2	1	3.5

社会人入試(前期) ※2021年度以降「Ⅰ期選抜(社会人)」

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	4	2	2	1	4
受験者数	4	2	1	1	4
合格者数	4	1	0	1	0
倍率(受/合)	1	2	—	1	—

社会人入試(後期) ※2021年度以降「Ⅱ期選抜(社会人)」

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	0	0	3	0	3
受験者数	0	0	3	0	3
合格者数	0	0	1	0	0
倍率(受/合)	—	—	2	—	—

2023.1.26

北海道内の博士後期課程定員充足率

大学院名	研究科・専攻名	収容定員(人) (2022年度)	在籍者数(人)			入学定員(人)	入学者数(人)		
			在籍者率				充足率		
			2020年度	2021年度	2022年度		2020年度	2021年度	2022年度
札幌医科大学大学院	保健医療学研究科看護学専攻 博士課程後期	6			5	2			3
					83.3%				150.0%
札幌市立大学大学院	看護学研究科 博士後期課程	9	16	16	19	3	5	5	4
			177.8%	177.8%	211.1%		166.7%	166.7%	133.3%
北海道医療大学大学院	看護福祉学研究科博士課程 (後期3年の課程)(看護学専攻)	6	10		11	2	1	0	5
			166.7%		183.3%		50.0%	0.0%	250.0%
北海道科学大学大学院	保健医療学研究科保健医療専攻 博士後期課程	9※	4	7	7	3	4	3	0
			<u>133.3%</u>	<u>116.7%</u>	77.8%		133.3%	100.0%	0.0%
北海道大学大学院	保健科学院保健科学専攻 博士後期課程	30	51	60	56	10	15	20	9
			170.0%	200.0%	186.7%		150.0%	200.0%	90.0%

※北海道科学大学大学院 保健医療学研究科保健医療専攻 博士後期課程の収容定員について、2020年度は3名、2021年度は6名であった。

表1-6.最上位取得学位名称別の教員数

2020年度

(人)

学位名称	国立大学 (回答課程数=42)					公立大学 (回答課程数=50)				
	学士	修士	博士	学位なし	合計	学士	修士	博士	学位なし	合計
看護学	31	319	222		572	98	713	414		1,225
保健学	0	77	216		293	2	83	127		212
医学	3	9	117		129	0	6	90		96
教育学	0	8	3		11	1	31	16		48
学術	0	3	24		27	0	14	15		29
その他	1	39	37		77	7	129	77		213
合計	35	455	619	8	1,117	108	976	739	20	1,843

学位名称	私立大学 (回答課程数=194)					全体 (回答課程数=286)				
	学士	修士	博士	学位なし	合計	学士	修士	博士	学位なし	合計
看護学	308	2,293	913		3,514	437	3,325	1,549		5,311
保健学	5	309	298		612	7	469	641		1,117
医学	0	24	297		321	3	39	504		546
教育学	8	171	26		205	9	210	45		264
学術	5	131	89		225	5	148	128		281
その他	89	797	333		1,219	97	965	447		1,509
合計	415	3,725	1,956	171	6,267	558	5,156	3,314	199	9,227

2021年度

(人)

学位名称	国立大学 (回答課程数=42)					公立大学 (回答課程数=50)				
	学士	修士	博士	学位なし	合計	学士	修士	博士	学位なし	合計
看護学	38	307	226		571	90	727	439		1,256
保健学	1	88	218		307	2	77	129		208
医学	2	6	111		119	0	5	93		98
教育学	0	6	3		9	1	25	14		40
学術	0	3	16		19	0	10	14		24
その他	1	32	43		76	7	123	82		212
合計	42	442	617	8	1,109	100	967	771	18	1,856

学位名称	私立大学 (回答課程数=197)					全体 (回答課程数=289)				
	学士	修士	博士	学位なし	合計	学士	修士	博士	学位なし	合計
看護学	289	2,327	1,023		3,639	417	3,361	1,688		5,466
保健学	5	294	307		606	8	459	654		1,121
医学	0	20	290		310	2	31	494		527
教育学	11	165	29		205	12	196	46		254
学術	3	133	90		226	3	146	120		269
その他	88	778	344		1,210	96	933	469		1,498
合計	396	3,717	2,083	140	6,336	538	5,126	3,471	166	9,301

教員の最終修得学位は、博士が2018年度2,945名(34.2%)→2019年度3,191名(35.4%)→2020年度3,314名(35.9%)→2021年度3,471名(37.3%)、修士が4,856名(56.5%)→5,038名(55.9%)→5,156名(55.9%)→5,126名(55.1%)と、博士取得者の割合が微増傾向にあった。2021年度を設置主体別で見ると、国立大学では博士が55.6%、修士が39.9%、公立大学では博士が41.5%、修士が52.1%、私立大学では博士が32.9%、修士が58.7%であり、博士を持つ教員は国立大学、公立大学の順で多かった。

2021年度において学位の名称別で見ると、看護学が最も多く、それぞれに占める割合は、学士(77.5%)、修士(65.6%)であり、博士は2019年度44.3%から2020年度46.7%に微増したものの、2021年度は48.6%であり、あまり変化は見られなかった。博士の学位では、看護学に次いで保健学(2019年度19.5%→2020年度19.3%→2021年度18.8%)、医学(16.7%→15.2%→14.2%)の順であり、減少傾向であった。また、2021年度において、いずれの学位も持たない教員は、国立大学で0.7%、公立大学で1.0%、私立大学で2.2%ですべての設置主体で減少傾向にあったが、私立大学で多い傾向に変わりは無かった。

表3-5.学部・学科での教員一人あたり平均学生数

	国立大学			公立大学			私立大学			全体		
	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数
教授	291		41.0	445		38.0	1,623		41.7	2,359		40.9
准教授	224		53.3	396		42.7	1,173		57.7	1,793		53.8
講師	121		98.6	373		45.3	1,463		46.3	1,957		49.3
助教	472	11,930	25.3	507	16,907	33.3	1,505	67,696	45.0	2,484	96,533	38.9
助手	24		497.1	119		142.1	566		119.6	709		136.2
その他	4		2,982.5	16		1,056.7	6		11,282.7	26		3,712.8
合計	1,136		10.5	1,856		9.1	6,336		10.7	9,328		10.3

学部・学科における教員一人当たりの平均学生数は、全体では、2017年度10.6名→2018年度10.8名→2019年度10.6名→2020年度10.3名で、2018年度からやや減少傾向であるものの大きな経年変化はみられなかった。設置主体別でみると、国立大学では2018年度10.8名→2019年度11.1名→2020年度10.5名、公立大学では2018年度9.3名→2019年度9.0名→2020年度9.1名、私立大学は2018年度11.2名→2019年度11.1名→2020年度10.7名であり、国立大学と私立大学で減少傾向がみられた。公立大学は国立大学や私立大学と比べると、少ない傾向が続いていた。

表3-6.修士課程/博士前期課程での教員一人あたり平均学生数

(人)

	国立大学			公立大学			私立大学			全体		
	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数
教授	276		5.2	406		2.9	882		2.3	1,564		3.0
准教授	209		6.9	324		3.6	532		3.8	1,065		4.4
講師	100		14.4	164		7.2	268		7.6	532		8.7
助教	305	1,435	4.7	118	1,173	9.9	144	2,028	14.1	567	4,636	8.2
助手	18		79.7	17		69.0	44		46.1	79		58.7
その他	2		717.5	4		293.3	8		253.5	14		331.1
合計	910		1.6	1,033		1.1	1,878		1.1	3,821		1.2

大学院修士課程/博士前期課程における教員一人当たりの平均学生数は、全体では、教授が2018年度3.2名→2019年度3.0名→2020年度3.0名、准教授4.6名→4.3名→4.4名であった。教授について設置主体別でみると、国立大学で2018年度5.0名→2019年度5.0名→2020年度5.2名、公立大学で3.1名→2.8名→2.9名、私立大学で2.4名→2.5名→2.3名であり、国立大学が最も多い傾向が続いていた。また、准教授では、国立大学で7.6名→7.0名→6.9名、公立大学4.3名→3.6名→3.6名、私立大学で3.6名→3.6名→3.8名であり、国立大学で減少はしていたものの設置主体別では多い傾向が続いていた。

表3-7.博士後期課程での教員一人あたり平均学生数

(人)

	国立大学			公立大学			私立大学			全体		
	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数	教員数	学生数	平均学生数
教授	276		3.7	406		1.2	882		0.9	1,564		1.5
准教授	209		4.9	324		1.5	532		1.5	1,065		2.2
講師	100		10.2	164		3.0	268		3.0	532		4.3
助教	305	1,021	3.3	118	485	4.1	144	808	5.6	567	2,314	4.1
助手	18		56.7	17		28.5	44		18.4	79		29.3
その他	2		510.5	4		121.3	8		101.0	14		165.3
合計	910		1.1	1,033		0.5	1,878		0.4	3,821		0.6

大学院博士後期課程における教員一人当たりの平均学生数は、全体では、教授は2018年度1.5名→2019年度1.6名→2020年度1.5名、准教授は2.2名→2.2名→2.2名であった。設置主体別でみると、教授では、国立大学で3.8名→4.0名→3.7名、公立大学で1.0名→1.1名→1.2名、私立大学で0.8名→1.0名→0.9名と全体的に増減がみられたが、国立大学で最も多い傾向が続いていた。また、准教授では、国立大学で5.7名→5.6名→4.9名、公立大学で1.4名→1.4名→1.5名、私立大学で1.2名→1.4名→1.5名と、公立大学・私立大学が微増傾向、国立大学で減少していたものの、国立大学が最も多かった。また、講師では、国立大学9.0名→9.9名→10.2名、公立大学3.1名→2.7名→3.0名、私立大学2.4名→3.2名→3.0名であり、国立大学の一人あたり平均学生数が最も多い傾向が続いていた。助教では、国立大学で3.7名→3.9名→3.3名、公立大学で7.9名→5.9名→4.1名、私立大学で4.6名→4.9名→5.6名であり、国立大学と公立大学での担当学生数の減少、私立大学での増加があり、私立大学で最も多くなっていた。

北海道内看護系大学教員の博士号学位保有割合

	教員数	博士学位保有人数	%
北海道大学	21	17	80
札幌市立大学	44	22	50
名寄市立大学	23	0	0
天使大学	33	12	36
日本赤十字北海道大学	37	9	24
北海道医療大学	44	11	25
旭川大学	28	2	7
北海道文教大学	21	5	23
札幌保健医療大学	30	6	20
北海道科学大学	29	10	34.4
日本医療大学	40	12	30
	350	106	30.2
旭川医科大学	28	不明	—
札幌医科大学	32	不明	—

ホームページより独自に作成

別表第5

入学検定料、入学金及び授業料等

(単位：円)

			入学検定料	入 学 金	授 業 料 等			合 計
					授 業 料	施設設備費	実験実習費	
看護学専攻	博士前期課程	出願時	30,000	-	-	-	-	30,000
		入学手続時	-	150,000	-	-	-	150,000
		前 期	-	-	480,000	100,000	50,000	630,000
		後 期	-	-	480,000	100,000	50,000	630,000
		年 額	-	-	960,000	200,000	100,000	1,260,000
	博士後期課程	出願時	30,000	-	-	-	-	30,000
		入学手続時	-	150,000	-	-	-	150,000
		前 期	-	-	340,000	100,000	50,000	490,000
		後 期	-	-	340,000	100,000	50,000	490,000
		年 額	-	-	680,000	200,000	100,000	980,000
栄養管理学専攻	博士前期課程	出願時	30,000	-	-	-	-	30,000
		入学手続時	-	150,000	-	-	-	150,000
		前 期	-	-	300,000	100,000	90,000	490,000
		後 期	-	-	300,000	100,000	90,000	490,000
		年 額	-	-	600,000	200,000	180,000	980,000
	博士後期課程	出願時	30,000	-	-	-	-	30,000
		入学手続時	-	150,000	-	-	-	150,000
		前 期	-	-	300,000	100,000	90,000	490,000
		後 期	-	-	300,000	100,000	90,000	490,000
		年 額	-	-	600,000	200,000	180,000	980,000

大学院看護学専攻博士後期課程 学費検討資料

1. 他大学(看護系)の状況

大学名		区分	入学金	授業料	施設費	実習費	その他	合計
北海道医療大学	看護福祉学研究科 看護学専攻	修士	200,000	800,000	0	0	0	1,000,000
		博士	200,000	750,000	0	0	0	950,000
北海道科学大学	看護学専攻	修士	200,000	800,000	0	0	0	1,000,000
	保健医療学専攻	博士	200,000	800,000	0	0	0	1,000,000
日本赤十字北海道看護大学	看護学専攻	修士	300,000	900,000	0	150,000	150,000	1,500,000
	共同看護学専攻	博士	400,000	800,000	0	0	300,000	1,500,000
聖路加国際大学	看護学研究科修士論文コース	修士	400,000	1,200,000	150,000	0	0	1,750,000
	看護学研究科上級実践コース	修士	400,000	1,350,000	150,000	0	0	1,900,000
	看護学研究科	博士	400,000	1,100,000	150,000	0	0	1,650,000
	公衆衛生学研究科	博士	400,000	1,200,000	300,000	0	0	1,900,000
上智大学	看護学専攻	修士	200,000	915,000	0	83,000	240,000	1,438,000
札幌医科大学	保健医療学研究科	修士/博士	282,000	535,800	0	0	0	817,800 ←A
札幌市立大学	看護学研究科(市外居住者)	修士/博士	282,000	535,800	0	0	0	817,800 ←A
	看護学研究科(市内居住者)	修士/博士	141,000	535,800	0	0	0	676,800

2. 本学の状況_学費

専攻名	区分	入学金	授業料	施設費	実習費	その他	年間合計
①看護学専攻 修士論文コース	一般	150,000	960,000	0	0	0	1,110,000
	卒業生	0	680,000	0	0	0	680,000
②看護学専攻 高度実践看護師コース 保健師コース	一般	150,000	960,000	0	50,000	0	1,160,000
	卒業生	0	680,000	0	50,000	0	730,000
③栄養管理学専攻 (博士前・後)	一般	150,000	600,000	200,000	180,000	0	1,130,000
	卒業生	0	600,000	100,000	180,000	0	880,000

※減額後の額で計上 (参考資料あり)

天使大学大学院 看護栄養学研究科 看護学専攻 博士後期課程（設置構想中）

【看護学専攻博士後期課程の概要】

開設年月： 2024年4月（予定）

名称： 天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）

入学定員： 2名

修行年限： 3年（長期履修制度、昼夜および土曜開講あり）

学位： 博士（看護学）

設置場所： 天使大学（札幌市東区北13条東3丁目1-30）

【養成する人材像】

- ① 高い倫理観を有し、地域に暮らす人々の健康課題を解決し、健康の促進に寄与する研究能力を有する人材
- ② 研究成果に基づく豊富な知識と技術力を持ち、質の高い保健医療・看護を提供できる高度専門職業人
- ③ 地域社会、保健医療の現場及び教育機関において、高い専門性をもって指導的教育的役割を担う人材
- ④ グローバルな視野を持ち学際的な広い見地から、人々の健康とQOLの向上、再生可能社会を目指して保健医療・看護の現場を変革できる人材

【開講科目】（予定）

基盤科目： 生命倫理特論、看護理論とその開発、疫学的研究方法論、質的研究方法論

専門科目： 広域基盤看護学特論、広域基盤看護学演習、データサイエンス演習
生涯発達看護学特論、生涯発達看護学演習、分子生命科学特論

研究科目： 看護学特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

【学納金】（検討中）

① 入学金： 150,000円

② 授業料： 600,000円

③ 施設設備費：200,000円

④ 実験実習費：180,000円

初年次納付金合計は1,130,000円である。なお、天使大学卒業生、修了生の入学金免除及び院
生研究費の支給を検討中。

【問合せ先】

天使大学 総務課 上村 俊哉

住所：札幌市東区北13条東3丁目1-30

電話：011-741-1051（代表）

Mail：t-uemura@tenshi.ac.jp

天使大学大学院 看護栄養学研究科 看護学専攻 博士後期課程設置に関する希望調査（在学生・ 修了生対象）

天使大学では社会のニーズに応え、地域の健康、生活の向上と看護学の発展に貢献できる研究者、指導者、リーダーの育成を目指して、2024年度看護栄養学研究科 看護学専攻 博士後期課程の設置に向けて作業を進めております。

今回、博士後期課程の設置に当たり、本学大学院の在学生と修了生の方を対象に博士後期課程設置に向けたアンケート調査にご協力をお願いしております。5分程度で終了いたしますので、アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

なお、博士後期課程の詳細については、以下をクリックしてご確認ください。

[天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程概要](#)

今回お知らせいただいたメールアドレスは、本アンケート以外に使用しないことを固くお約束いたします。

***必須**

ご自身のことについて伺います。

1. 問1. あなたの現在の在籍状況を教えてください。*

1つだけマークしてください。

- 現在大学院生である
 修了生である

2. 問2. あなたの在籍している（していた）コースを教えてください。*

1つだけマークしてください。

- 看護学専攻（修士論文コース）
 看護学専攻（保健師コース）
 看護学専攻（高度実践看護師コース）
 助産基礎分野
 助産教育分野

3. 問3. 本研究科では長期履修学生制度を実施していますが、あなたは当該制度を利用していますか（していましたか）？ *

1つだけマークしてください。

- 利用している（していた）
 利用していない（していなかった）

4. 問4. あなたの現在の就労状況について教えてください。選択肢以外の状況については、その他に記入して下さい。現在、就労中（休職含む）と回答した方は、問5の「現在の勤務先の状況について」にお進み頂きます。それ以外の方は、問6にお進み頂きます。 *

1つだけマークしてください。

- 現在、就労中である 質問5にスキップします
 就労しながら、大学院で学んでいる 質問5にスキップします
 就労していたが、大学院への入学を機に「休職」している 質問5にスキップします
 就労していたが、大学院への入学を機に「退職」した 質問6にスキップします
 現在、就労していない 質問6にスキップします
 その他: _____

現在の勤務先の状況について

5. 問5. あなたの現在の勤務先について教えてください。 *

1つだけマークしてください。

- 病院等の医療施設
 行政機関（保健所などの公的機関）
 助産所
 教育機関（大学、短大、専門学校など）
 その他: _____

博士後期課程について伺います。

6. 問6. 博士後期課程について興味・関心がありますか？ *

1つだけマークしてください。

- とても興味・関心がある
- 興味・関心がある
- あまり興味・関心がない
- その他: _____

7. 問7. 博士後期課程への進学意向はありますか？ *

「ぜひ進学したい」、「進学したい」、「条件が整えば進学した」、「修士課程の修了後に検討した」を選択した方は問8にお進み頂きます。それ以外の方は、問9にお進み頂きます。

1つだけマークしてください。

- ぜひ進学したい 質問8にスキップします
- 進学したい 質問8にスキップします
- 条件が整えば進学したい 質問8にスキップします
- 修士課程の修了後に検討したい 質問8にスキップします
- 進学は考えていない 質問9にスキップします
- わからない 質問9にスキップします
- その他: _____

博士後期課程の進学希望理由について伺います。

8. 問8. あなたが博士後期課程への進学を希望する理由は何ですか？当てはまるものを複数回答しても構いません。選択項目意外の理由がある方はその他の欄にご記入下さい。 *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 博士の学位を取得したい
- 研究者になりたい
- 教育者（大学等の教員）になりたい
- 現在の仕事の能力をさらに高めたい
- 将来の進路の可能性を広げたい
- 業務上、必要なため
- 転職や独立のため
- 社会活動に活かすため
- その他: _____

博士後期課程の進学先を選択する際の重視事項について

- 9。 問9. 博士後期課程への進学を選択する際に重視する事柄は何ですか？当てはまるものを複数回答しても構いません。選択項目以外の理由がある場合は、その他の欄にご記入下さい。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 教育内容（他大学ではあまり学ぶことが出来ない内容）
- 実施可能な研究内容
- 指導教員
- 学費・奨学金制度
- 就職への有利性
- 遠隔授業への対応
- その他: _____

- 10。 問10. 本研究科の博士後期課程設置に当たり、関心がある科目や開講を希望する科目があればご記入下さい。

本研究科の大学院博士後期課程設置についてのご意見・ご要望について

- 11。 問11. 設置を計画している本研究科の博士後期課程についてのご意見・ご要望・ご質問がありましたらお聞かせ下さい。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

2022年12月

天使大学大学院博士後期課程設置に関するアンケート調査
(在学生・修了生対象) 集計結果

表1 回答者の背景

修士論文コース		保健師コース		高度実践看護師コース		助産基礎分野		助産教育分野	
人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%
7	9.5	13	17.6	12	16.2	28	37.8	14	18.9

表2 現在の在籍状況

n=74

区分	修士論文コース n=7		保健師コース n=13		高度実践看護師コース n=12		助産基礎分野 n=28		助産教育分野 n=14		合計	
	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%
1. 修了生である	5	71.4	8	61.5	10	83.3	27	96.4	14	100.0	64	86.5
2. 現役生である	2	28.6	5	38.5	2	16.7	1	3.6	0	0.0	10	13.5

表3 長期履修制度の利用状況

n=74

区分	修士論文コース n=7		保健師コース n=13		高度実践看護師コース n=12		助産基礎分野 n=28		助産教育分野 n=14		合計	
	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%
1. 利用している (していた)	3	42.9	0	0.0	2	16.7	0	0.0	0	0.0	5	6.8
2. 利用していない (していなかった)	4	57.1	13	100.0	10	83.3	28	100.0	14	100.0	69	93.2

表4 現在の就労状況

n=74

区分	修士論文コース n=7		保健師コース n=13		高度実践看護師コース n=12		助産基礎分野 n=28		助産教育分野 n=14		合計	
	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%
1. 現在就労中である	5	71.4	8	61.5	10	83.3	27	96.4	11	78.6	61	82.4
2. 就労しながら大学院で学んでいる	1	14.3	0	0.0	2	16.7	0	0.0	1	7.1	4	5.4
3. 就労していたが、大学院への進学を機に休職している	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4. 就労していたが、大学院への進学を機に退職している	1	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	7.1	2	2.7
5. 現在就労していない	0	0.0	5	38.5	0	0.0	1	3.6	1	7.1	7	9.5

表5 現在の勤務先

n=65

区分	修士論文コース n=6		保健師コース n=8		高度実践看護師コース n=12		助産基礎分野 n=27		助産教育分野 n=12		合計 n=65	
	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%
1. 病院等の医療機関	2	33.3	1	12.5	10	83.3	22	81.5	6	50.0	41	63.1
2. 行政機関（保健所などの公的機関）	1	16.6	5	62.5	0	0.0	2	7.4	0	0.0	8	12.3
3. 助産所	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.7	0	0.0	1	1.5
4. 教育機関（大学、短大、専門学校など）	3	50.0	0	0.0	2	16.7	1	3.7	6	50.0	12	18.5
5. その他	0	0.0	2	25.0	0	0.0	1	3.7	0	0.0	3	4.6

その他の記載

サービス業（保健師コース修了者）
 訪問看護ステーション（保健師コース修了者）
 保育園（助産基礎分野修了者）

表6 博士後期課程に関する興味・関心

n=74

区分	修士論文コース n=7		保健師コース n=13		高度実践看護師コース n=12		助産基礎分野 n=28		助産教育分野 n=14		合計	
	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%
1. とても興味・関心がある	2	28.6	6	46.2	2	16.7	5	17.9	4	28.6	19	25.7
2. 興味・関心がある	4	57.1	6	46.2	6	50.0	11	39.3	5	35.7	32	43.2
3. あまり興味・関心がない	1	14.3	1	7.7	4	33.3	11	39.3	5	35.7	23	31.1
4. その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.6	0	0.0	1	1.4

表7 博士後期課程への進学意向

n=74

区分	修士論文コース n=7		保健師コース n=13		高度実践看護師コース n=12		助産基礎分野 n=28		助産教育分野 n=14		合計	
	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%
1. ぜひ進学したい	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.6	3	21.4	4	5.4
2. 進学したい	1	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.4
3. 条件が整えば進学したい	4	57.1	4	30.8	3	25	8	28.6	3	21.4	22	29.7
4. 修士課程の終了後に検討したい	1	14.3	2	15.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	4.1
5. 博士課程への進学は考えていない	1	14.3	4	30.8	7	58.3	14	50.0	7	50.0	33	44.6
6. わからない	0	0.0	2	15.4	1	8.3	5	17.9	1	7.1	9	12.2
7. その他	0	0.0	1	7.7	1	8.3	0	0.0	0	0.0	2	2.7

その他の記載

すでに他大学に進学している（高度実践看護師コース）

表8 本学博士後期課程への入学意向について n=51

区分	合計	
	人数	割合%
1. ぜひ進学したい	4	7.8
2. 進学したい	1	2
3. 条件が整えば進学したい	22	43.1
4. 修士課程の終了後に検討したい	3	5.9
5. 博士課程への進学は考えていない	13	25.5
6. わからない	6	11.8

表9 本課程への関心と進学希望(クロス集計)

区分	とても興味・関心がある		興味・関心がある		あまり興味・関心がない		その他	
	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%
1. ぜひ進学したい	4	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2. 進学したい	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0
3. 条件が整えば進学したい	10	45.5	12	54.5	0	0.0	0	0.0
4. 修士課程の終了後に検討したい	0	0.0	3	100.0	0	0.0	0	0.0
5. 博士課程への進学は考えていない	5	15.2	8	24.2	20	60.6	0	0.0
6. わからない	0	0.0	6	66.7	2	22.2	1	11.1
7. その他	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0

表10 進学希望理由 (複数回答)

n=31

区分	修士論文コース n=6	保健師コース n=6	高度実践看護 師コース n=4	助産基礎分野 n=9	助産教育分野 n=6	合計
	のべ人数	のべ人数	のべ人数	のべ人数	のべ人数	のべ人数
1. 博士の学位を取得したい	5	2	4	4	5	16
2. 研究者になりたい	1	2	0	2	0	5
3. 教育者 (大学等の教員になりたい)	2	2	2	2	4	12
4. 現在の仕事の能力をさらに高めたい	4	4	3	6	6	23
5. 将来の進路の可能性を広げたい	2	3	2	7	2	16
5. 業務上必要なため	0	0	1	0	2	3
6. 転職や独立のため	1	0	1	1	0	2
7. 社会活動に活かすため	0	1	1	4	4	10

その他の記載

天使大学の博士課程を修了して頑張りたいです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。
社会活動に活かすため、看護教育者、助産師として社会貢献したいため進学をしたいと考えています。

表11 進学にあたって重視する事（複数回答）

n=74

区分	修士論文コース n=7	保健師コース n=13	高度実践看護 師コース n=12	助産基礎分野 n=28	助産教育分野 n=14	合計
	のべ人数	のべ人数	のべ人数	のべ人数	のべ人数	のべ人数
1. 教育内容（他大学ではあまり学ぶことができない内容）	6	11	10	24	14	65
2. 実施可能な研究内容	4	7	5	14	8	38
3. 指導教員	7	5	6	8	9	35
4. 学費・奨学金制度	4	8	4	16	7	39
5. 就職への有利性	2	2	1	5	3	13
6. 遠隔授業への対応	5	4	4	11	9	33

その他の記載

授業の開講時間、他校との交流制度。
大学の指導バックアップ体制
社会人枠や就学しながらでも学べること
就労しながらも履修可能な制度
遠隔か対面か選べる授業が増えたら、進学したい人も増えると思う

表12 博士課程への進学を希望する際に重視する事柄について(複数回答)

n=30

区分	件数	合計(%)
1.教育内容(他大学ではあまり学ぶことができない内容)	18	60.0
2.実現可能な研究内容	14	46.7
3.指導教員	10	33.3
4.学費・奨学金	14	46.7
5.就職への有利性	5	16.6
6.遠隔授業への対応	11	36.7
自由記述		
<ul style="list-style-type: none"> ・開講時間の配慮や他校との交流があると良い ・大学の指導バックアップ体制があると良い ・他大学院のように社会人枠や就労しながらでも学べるようにしてほしい ・就労しながらも履修可能な制度があると良い ・遠隔か対面か選べる授業が増えたら、進学したい人も増えると思う 		

表13 関心がある科目や開講を希望する科目（複数回答）

n=15

自由記載
精神看護学
虐待やDVの支援に関する科目
DNPコース（Doctor of Nursing Practice）実践看護基礎学：看護教育学、次世代育成看護学：女性健康看護学、ウィメンズヘルス
看護基礎教育
人材育成や医療経営
看護学 助産教育
感染症分野、難病支援分野
精神看護・家族看護・発達課題
医療英語を勉強できる機会があったらいいと思う
倫理、哲学
助産師教育
助産学(母性看護学ではなく)
臨床栄養学総論
母性看護、助産

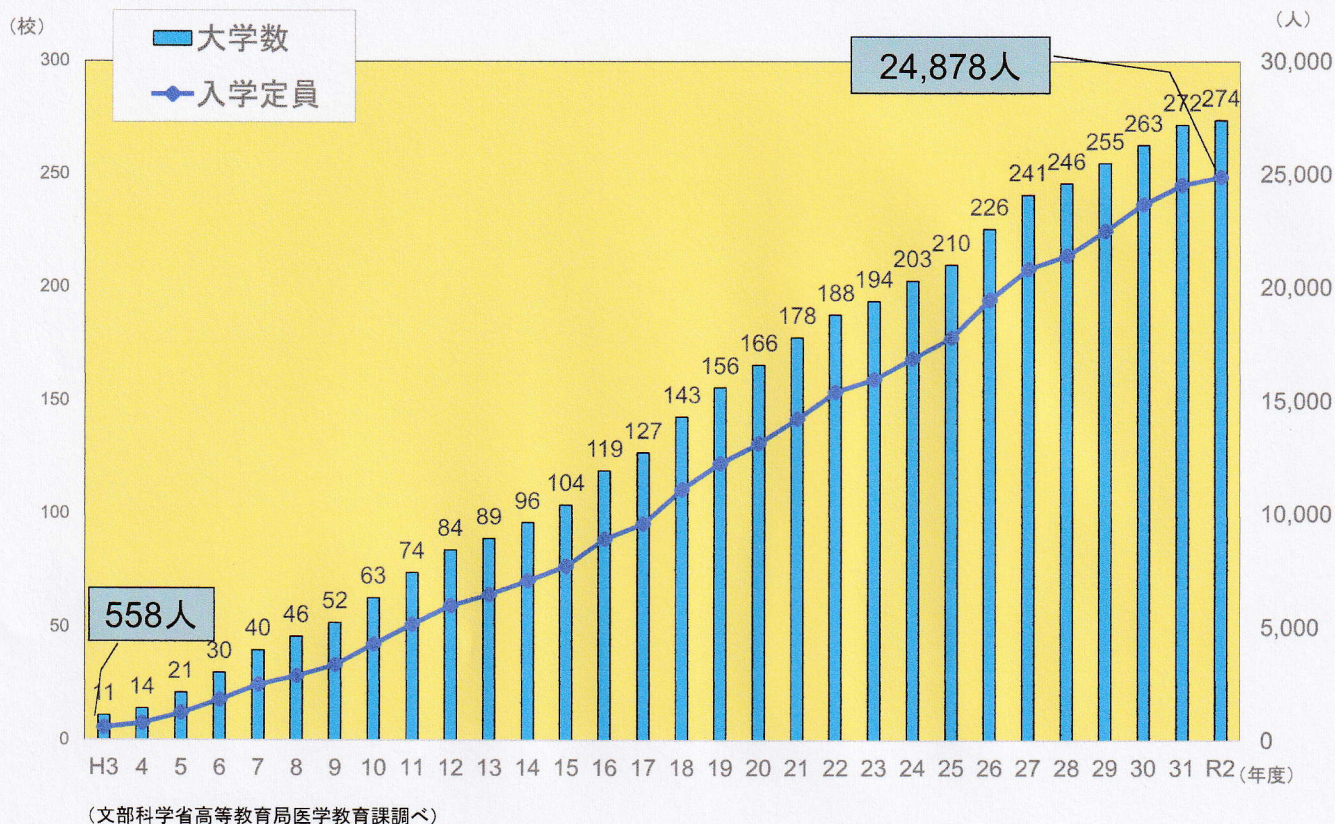
意見・要望・質問（複数回答）

n=13

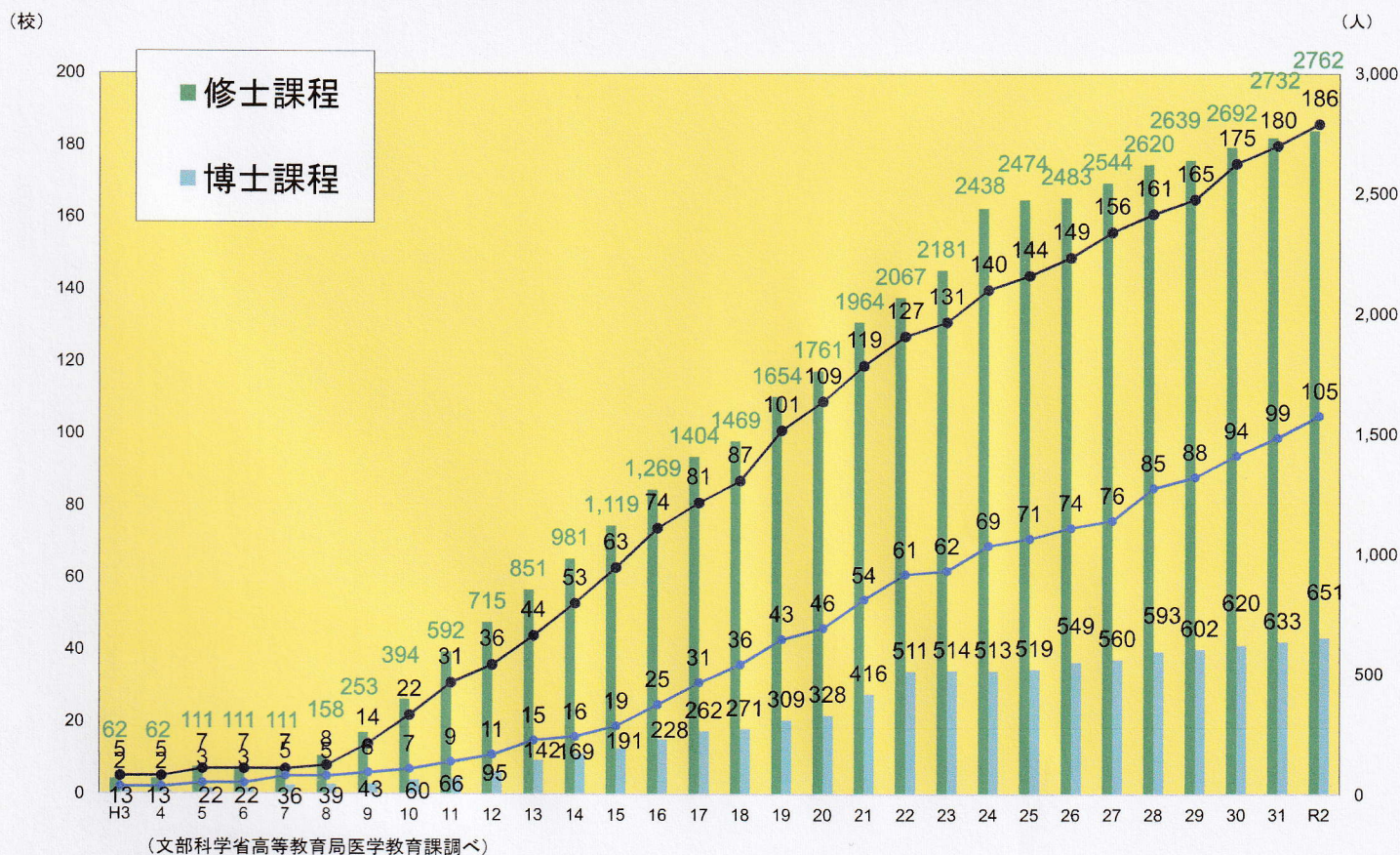
自由記載
専門職学位からの進学は認められますか。
私学ということで、やはり学費の問題があると思います。学費が高額ではなく、仕事を続けながら学べる環境があるなら進学を検討したいと思います。また、領域に関係なく指導を受けたい指導教授の元で学べるようなコースがあると良いのではないかと思います。
卒業生の学費がある程度安くなるとありがたいです。あとは、卒業後の就職先に需要があるか気になります。
他大学ではなく、天使大学へ進学する際の利点をもっとわかるとよいと思います。
学費を可能な限り抑えてもらいたい
学費を分割払いにしてほしい
講師を教えて欲しい
経済的な面もあり、働きながら学修できる環境を期待します。
リモートで全国どこからでも学べるスタイルがいいと思う。天使ならでなのカリキュラムを組んだほうがいいと思う。
解説になりましまら是非ご案内になりましたらよろしくお願いたします。
2024年受験させていただけますように頑張ってます。募集要項できましたら是非ご連絡いただきたいと思っております。
専門職学位からの進学は認められますか。
能力、技術向上のため期待しています。

看護系大学数及び入学定員の推移 (令和2年度)

2020年度の教育課程数は、274大学、289課程(1大学で複数の教育課程を有する大学がある)



看護系大学院数及び入学定員の推移 (令和2年度)



(注) 平成16年度以後の修士課程には、専門職大学院1大学院(入学定員40名)を含む。

北海道内看護系大学教員学生担当数

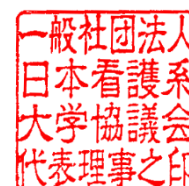
	教員数	学生数	担当人数
北海道大学	21	268	12.76
札幌市立大学	44	340	7.72
旭川医科大学	28	240	8.57
札幌医科大学	36	200	5.5
名寄市立大学	23	200	8.69
旭川大学	28	240	8.57
天使大学	33	400	12.12
日本赤十字北海道大学	37	400	10.81
北海道医療大学	44	400	9.09
北海道文教大学	21	320	15.23
札幌保健医療大学	30	400	13.3
北海道科学大学	29	360	12.4
日本医療大学	40	600	15
合計	414	4368	10.55

ホームページより独自に作成

平成30年4月13日

自民党看護問題対策議員連盟

会長 伊 吹 文 明 殿

一般社団法人日本看護系大学協議会
代表理事 上泉和子

要 望 書

時下 ますますご清祥のことと存じます。看護学教育についてのご支援に感謝申し上げます。

一般社団法人日本看護系大学協議会（以下、「本協議会」という）は、看護学高等教育機関相互の連携と協力により、看護学教育の充実・発展及び学術研究の水準向上を図り、もって人々の健康と福祉へ貢献することを目的とする法人です。保健師・助産師・看護師の国家試験受験資格を取得させる4年制大学及び省庁大学校の代表を社員とし、設置主体を問わずほぼ全部の看護系大学が加盟しています。

看護系大学、学部等は、平成30年4月には266校、278課程となり、わずか30年の間に25倍になりました。入学定員は前年より1,200人近く増え、およそ24,000人となります。関係各位のご尽力に心からお礼申し上げます。看護基礎教育を学士課程で行うことは、長年にわたり看護界が切望してきたところであり、看護基礎教育を大学教育に一本化できるよう今後ともより一層の量的拡大に努力してまいります。

一方で、看護系大学・学部等の量的拡大は、教員不足や実習場所の確保困難といった課題を産み出してきており、看護学士課程教育の質保証に対して、社会から重大な関心が寄せられております。本協議会はこのような状況をふまえ、「看護学士課程教育の質保証－量と質の共栄－」という観点から、教育の質を担保しつつ、量的拡大に取り組んでいく所存です。

また、学士課程の増大は大学院修士課程、博士課程の増加にもつながって、多くの看護系大学院で高度実践看護師や教育研究者、管理者の育成が行われています。近い将来想定される多様で複雑かつ深刻な健康課題に対応できる高度実践看護師や、教育の質の向上に資する研究者、教育者、看護の人的資源を効率的に活用し安全な看護をマネジメントできる管理者の育成は喫緊の課題であると考えます。本協議会は、社会や国民の要請に応えられる人

材育成を目指して、学士課程教育大学院教育の質の保証と人材育成をさらに進めていくつもりです。

つきましては、下記の点について多大なるお力添えをいただきたく、お願い申し上げます。

1. 日本看護学教育認証評価機構設立への支援と助成について

わが国の第2期教育振興基本計画（平成25年6月閣議決定）では、高度専門人材育成に向けて、「大学における分野別質保証の構築・充実に向けた取り組みを促進する」こととしています。看護学教育においても質保証の観点から分野別教育評価が重要であると認識し、文部科学省大学評価研究委託事業等の助成を受け、分野別評価の実施に向けて取り組んできました。

本協議会ではグローバルスタンダード（CCNE：Commission on Collegiate Nursing Education）に即した、学士課程ならびに大学院修士課程の看護学教育コアコンピテンシーを策定し、評価基準とともに評価体制の整備をし、今年度の本協議会社員総会後に分野別評価の実施機関として「日本看護学教育認証評価機構」を設立します。

つきましては、分野別認証評価の円滑な実施と評価機構の安定的運営に対し、多大なるご支援と助成をお願いします。

2. 看護系大学の看護教員養成のための支援と助成について

看護系大学の量的拡大によって、新設大学のみならず、既設の大学も教員確保が困難な状況にあります。看護系大学教員数はおよそ8,000人で、平成28年度の実績では、看護学修士227名、博士133名が大学等に就職しておりますが、看護教員の数的な不足は明らかで、大学教育の質保証においては、各大学における教員の確保が喫緊の課題です。

本協議会は平成30年3月に「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」を策定し、公表しました。また、平成29年10月には文部科学省より「看護教育モデル・コア・カリキュラム」が公表されました。本協議会は、各大学がこれらを参照してカリキュラムの一層の充実を図るよう支援していきます。看護学教育は、社会の変化や保健医療福祉政策の

転換などの影響を受けて、教育の様々な局面で変換を余儀なくされています。学生が卒業時到達目標を達成し、看護実践能力を確実に修得することを保証するために、教員の充実は不可欠であり、看護系大学の増設ペースに見合った看護教員の養成が必須です。看護系大学の看護教員の要件として学位の取得は重要ですが、多くの大学院で学生募集に困難をきたしています。経済的な理由や、職場を離れることの難しさ等様々な理由で、一度社会人となった看護職の大学院進学が阻まれていると思われまます。

以上のことをふまえ、次の4点の支援および助成をお願いします。

- ① 大学院における看護教員養成課程の新設、ならびに看護教員養成課程充実への助成。
- ② 看護教員を志す看護職に対する奨学金補助。
- ③ 看護学教育のリーダー育成、看護教育課程のマネジメント（Academic Administration）を担う人材の育成のための、留学奨学金の補助。
- ④ 現職の看護教員の教育力・指導力向上のためのFDに係る補助。
- ⑤ 大学院教育に専念できる教員の配置が可能となる教員の確保に対する支援と助成。

3. 高度実践看護師（専門看護師：CNS、ナースプラクティショナー：NP）の教育の推進

本協議会では、平成10年より大学院における専門看護師教育課程の認定を開始しました。平成24年には、ナースプラクティショナーの養成の必要性を検討して概念を整理し、それまでの専門看護師教育課程に加え、新たにナースプラクティショナー教育課程（46単位）を設け、2コースを合わせて高度実践看護師教育課程を確立しました。専門看護師教育課程は、実践活動をより重視する観点から修得単位数を26単位から38単位に増やしました。平成26年度にはナースプラクティショナー教育課程の認定を開始し、修了者を出すこととなりました。平成30年2月現在、認定されている専門看護師教育課程は108大学、306教育課程、ナースプラクティショナー教育課程は2大学、2課程です。また、資格を認定された専門看護師は、平成29年12月現在2,104名になります。大学院の増加、ナースプラクティショナーへのニーズの高まり、ならびに専門看護師のこれまでの活躍や成果を鑑みれば、今後さらに高度実践看護師教育の推進に力を入れる必要があると認識し

ています。特に、地域において慢性疾患の診療や悪化予防等のプライマリケアや看取りのケアを通して、住み慣れた場所で療養を継続する人々に包括的、継続的に最良の看護を提供できるナースプラクティショナーの育成は、これからの超高齢社会において重要な課題であると考えます。

高度実践看護師の必要性は高まってきていますが、養成が社会や実践現場のニーズに対応しきれていない状況です。米国には7万2千人の専門看護師と23万4千人のナースプラクティショナーが地域や医療機関、外来、クリニック等で活躍しています。高度実践看護師は費用対効果の高い効率的な保健医療と看護サービスを提供でき、それは結果として師の負担を軽減することにもつながります。本協議会は、さらなる高度実践看護師の教育の推進と活動の支援を行うことにより、社会や国民のニーズに応えていきたいと考えます。

以上のことを踏まえ、次の2点の支援および助成をお願いします。

- ① 高度実践看護師教育課程進学者への奨学資金による支援。
- ② 高度実践看護師教育課程の教育に専念できる教員の確保に対する支援。
- ③ 専門看護師やナースプラクティショナーの教育に必要な教育力・指導力を獲得するための教員の海外留学の助成。

4. 地域で継続的な看護サービスを提供する人材育成のための教育・研究の支援と助成について

本協議会は、平成27年度から平成29年度までの3年間で、文部科学省からの助成を得て、地域包括ケアの時代に向けた新たな看護学実習の在り方について検討し、実習教育の質を担保するために「臨地実習の基準」を策定しました。またそこでは、現在の看護系大学が抱えている実習の課題も明らかになりました。実習は看護学教育において重要な学修形態であり、実習を通して学生は多くのことを学びます。本協議会は、策定した「臨地実習の基準」の活用を推進し、普及させる取り組みと、調査で明らかになった共通した実習の課題を解決するための方策を含む具体的な実習の指針の作成、シミュレーション教育の導入とその教育評価等について研究を行い、より質の高い、効果的な臨地実習の在り方を提言する所存です。

以上のことを踏まえ、次の3点について支援および助成をお願いします。

- ① 臨地実習の指針の作成とその普及活動に対する助成。

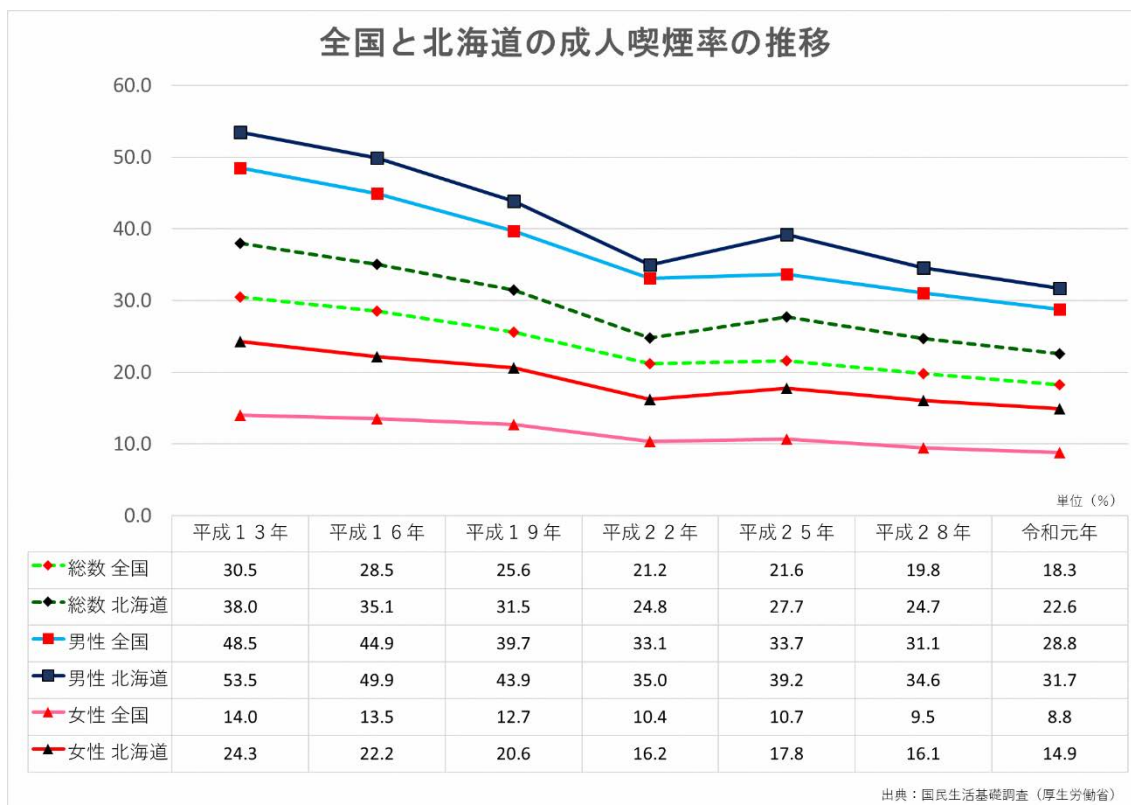
- ② 地域で実習を引き受ける施設への実習教育費の補助。
- ③ シミュレーション教育の導入推進のための環境整備に対する助成。

5. 博士課程教育の推進・充実

博士課程を有する看護系大学院は95校となり、看護系大学に占める博士課程の比率は約36%で、研究者、教育者の育成に尽力してきました。しかしながら近年の研究開発のニーズをみれば、政策に資するビッグデータ等を扱うことができる研究者、学際的研究開発プロジェクトをマネジメントできる研究者などの必要性が高まっていることは明らかです。実践科学である看護学の知識体系は、このような研究における成果が不可欠です。

以上のことを踏まえ、次の2点について支援および助成をお願いします。

- ① 政策に資するようなビッグデータを扱うことができる研究者を育成する博士課程への支援。
- ② 学際的な研究開発のプロジェクトを運営できる研究者育成が可能な博士課程への支援。



市町村国保 都道府県別特定健康診査実施状況(令和2年度速報値)

	令和2年度速報値				(参考)令和元年度速報値		
	特定健診対象者数(人)	特定健診受診者数(人)	実施率	対前年差	特定健診対象者数(人)	特定健診受診者数(人)	実施率
北海道	770,907	207,973	27.0%	-1.9%	781,742	226,133	28.9%
青森	219,737	74,237	33.8%	-4.2%	223,063	84,755	38.0%
岩手	194,052	82,475	42.5%	-5.4%	195,547	93,719	47.9%
宮城	325,513	136,700	42.0%	-6.9%	325,534	159,105	48.9%
秋田	161,770	49,687	30.7%	-6.7%	162,988	60,929	37.4%
山形	164,655	77,744	47.2%	-2.5%	165,098	81,987	49.7%
福島	296,435	111,483	37.6%	-5.7%	297,024	128,563	43.3%
茨城	471,795	124,174	26.3%	-12.3%	477,917	184,379	38.6%
栃木	316,981	97,487	30.8%	-6.2%	319,864	118,226	37.0%
群馬	311,647	109,840	35.2%	-7.4%	315,227	134,214	42.6%
埼玉	1,064,279	371,155	34.9%	-5.8%	1,073,258	436,304	40.7%
千葉	922,065	304,423	33.0%	-7.9%	933,309	381,558	40.9%
東京	1,772,754	723,694	40.8%	-3.4%	1,793,058	792,504	44.2%
神奈川	1,223,888	314,861	25.7%	-3.1%	1,236,636	356,549	28.8%
新潟	344,240	130,419	37.9%	-7.1%	344,231	155,057	45.0%
富山	144,071	60,099	41.7%	-3.0%	144,812	64,783	44.7%
石川	160,547	64,480	40.2%	-6.8%	161,690	76,053	47.0%
福井	104,832	28,227	26.9%	-8.1%	105,653	37,002	35.0%
山梨	135,693	52,962	39.0%	-7.4%	136,234	63,260	46.4%
長野	314,656	130,662	41.5%	-5.3%	316,799	148,217	46.8%
岐阜	302,548	114,765	37.9%	-2.6%	305,450	123,704	40.5%
静岡	562,593	195,771	34.8%	-3.6%	568,525	218,311	38.4%
愛知	1,007,007	361,849	35.9%	-3.6%	1,013,807	400,355	39.5%
三重	262,813	110,571	42.1%	-1.9%	264,849	116,506	44.0%
滋賀	192,324	68,191	35.5%	-6.3%	192,878	80,637	41.8%
京都	367,714	105,852	28.8%	-5.9%	370,564	128,655	34.7%
大阪	1,250,940	344,299	27.5%	-2.6%	1,267,055	381,622	30.1%
兵庫	795,086	245,624	30.9%	-3.2%	799,153	272,662	34.1%
奈良	214,153	66,158	30.9%	-2.7%	215,666	72,432	33.6%
和歌山	172,674	54,890	31.8%	-4.5%	174,013	63,110	36.3%
鳥取	84,369	27,385	32.5%	-1.8%	85,952	29,505	34.3%
島根	97,394	43,960	45.1%	-1.6%	97,603	45,619	46.7%
岡山	266,263	76,404	28.7%	-1.8%	269,273	82,003	30.5%
広島	382,706	104,349	27.3%	-3.4%	388,851	119,523	30.7%
山口	212,469	63,105	29.7%	-0.6%	214,495	65,042	30.3%
徳島	112,970	41,756	37.0%	0.1%	112,937	41,723	36.9%
香川	144,012	56,792	39.4%	-4.6%	144,981	63,788	44.0%
愛媛	220,929	63,054	28.5%	-4.3%	224,140	73,512	32.8%
高知	120,413	42,361	35.2%	-2.5%	121,728	45,952	37.7%
福岡	707,541	222,469	31.4%	-2.8%	709,153	242,658	34.2%
佐賀	120,109	46,585	38.8%	-4.5%	120,633	52,236	43.3%
長崎	228,977	74,395	32.5%	-6.7%	230,036	90,060	39.2%
熊本	283,511	95,308	33.6%	-4.4%	285,626	108,632	38.0%
大分	173,701	61,536	35.4%	-5.1%	175,249	71,009	40.5%
宮崎	184,032	66,096	35.9%	-2.8%	185,857	71,854	38.7%
鹿児島	265,249	108,962	41.1%	-3.6%	265,666	118,650	44.7%
沖縄	232,547	74,619	32.1%	-6.5%	231,383	89,345	38.6%
全国	18,385,561	6,189,888	33.7%	-4.3%	18,545,207	7,052,402	38.0%

※ 令和2年度速報値は、保険者が社会保険診療報酬支払基金に報告し令和2年度の特定健康診査等の実績報告データをベースとしたファイルの集計結果

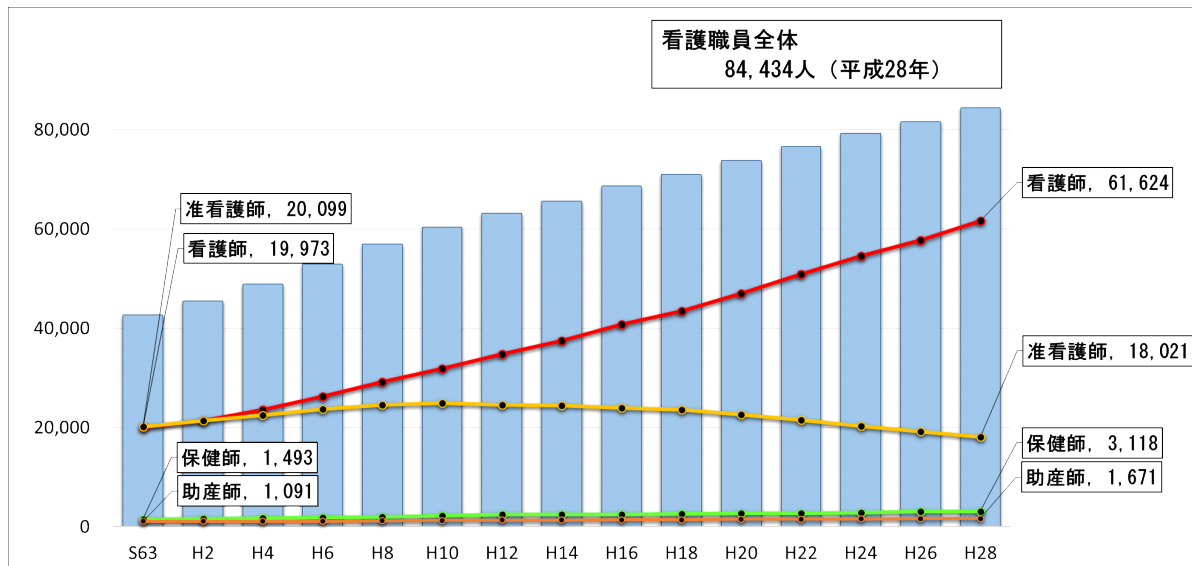
第5節 看護職員

現 状

- 道内の看護職員の就業者数は、平成28年12月末現在で、8万4,434人となっており、年々増加傾向にあります。また、常勤換算では7万7,815人となっています。職種別就業者数で見ると、保健師、助産師、看護師にあつては、増加傾向となっていますが、准看護師にあつては、平成10年以降、減少傾向となっています。

【看護職員就業者数の推移（年次・職種別）】

各年12月末現在（単位：人）



* 北海道保健福祉部「看護師等業務従事者届」

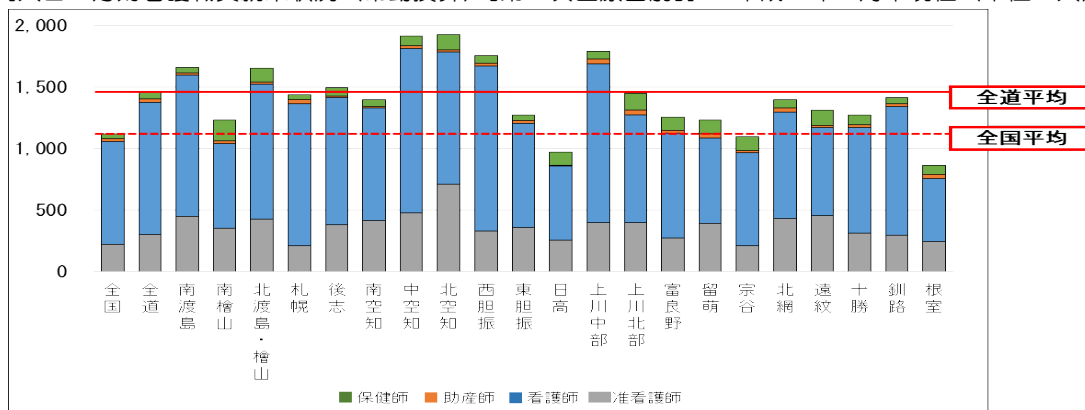
- 人口10万人当たりの就業者数（常勤換算）は、保健師、助産師、看護師、准看護師全てにおいて、全国平均を上回っていますが、第二次医療圏別では日高、宗谷、根室圏域で全国平均を下回り、看護職員の地域偏在が課題となっています。

【人口10万対看護職員就業状況（常勤換算）[全国との比較]】 平成28年12月末現在（単位：人）

区分	保健師	助産師	看護師	准看護師
北海道	54.8	29.1	1074.0	302.8
全国	37.7	25.6	832.5	222.6

* 北海道保健福祉部「看護師等業務従事者届」

【人口10万対看護職員就業状況（常勤換算）[第二次医療圏別]】 平成28年12月末現在（単位：人）



* 北海道保健福祉部「看護師等業務従事者届」